



新緑の西の京(奈良)

今月の十日に婦人週間のための講演で網走に出かけ、町のおかみさん

や農家の主婦やPTAのお母さんたち、それに工場に勤めている婦人たち

網走から九州を経て大阪まで

加茂儀一

緑丘

全国版
(通巻)No.25 (37年度1号)
大阪市北区曾根崎新地
日本電気機器株式会社内
緑丘大阪支部
編集部
大阪市東区道修町三の一
塩野義製薬株式会社内
梶目英三

ちらと膝つきあわせての懇談会をもち、このさいはての地で同じ日本人でありながら東京や大阪にいる同じ主婦と全く異なった生活環境から起るむづかしい問題に直面している日本の女の人たちから親しく話をきくことができた。もちろん自分は問題の解決者ではなく、その資格もない。しかしその話をきくことによつて教育界の片隅に身をおく私は、元気づけられた。毎月一度でもいいから来て話をしてくれといつてくれたあの主婦たちの顔を私は忘れることはできない。それにしても昨年、札幌で同じ婦人週間に数千の主婦相手に話をした時に同じ問題にみんなが悩んでいたことを思い出して、日本の主婦たちの前途の多難であることを思わざるを得なかった。

十四日は学部、十五日は短大のそれぞれが入学式があり、今年も無事に合計二百八十四名の新入生を迎えることができた。これらの新入生が小樽の伝統のよきところをとって将来よき緑丘人として育ってくれることを祈らざるを得なかった。去年は証券講座、ランゲージ・ラボラトリーの開設を見、今年は管理科学を開設し、五千万円という大額の寄金を使って電子計算機を購入する手筈になっている。この新鋭の利器によって本学が近く一大飛躍をすることを期

待して頂くとともに今後とも鞭撻を望んでやまない。

入学式を終えた十六日に新しく迎える教官の用事と他大学の見学を兼ねて今度は南の端の鹿児島、長崎、熊本各大学を訪れたが、各大学とも学生の訓育に懸命の努力を払っていられるのを見て頭のさがる思いがした。大学の教官が収入が少いからといって自分の本職を忘れてアルバイトに夢中になっている状態から早く脱皮して、せめて自分の大学の学生だけは立派に育てるようにと努力をしないでならない時代が早く来なければ、とても日本の学生は真面目には育つていけない。私達の責任の重いこと、そのためにはいくら努力してもそれでよいということはない。九州での用をたしてから二十三日に神戸大学での新設の校舎を見学、母校の大きくなることは嬉しいが、それにしても本学はもっともっと施設の拡充をしなくてはならないと思う。

その日から東京の緑丘後援会事務局長神田氏、関西の事務局長宮地氏と一緒に関西での募金で連日動いている。

みんなの御好意を感謝したい。

(小樽商大学長)



世界のビール三大名産地

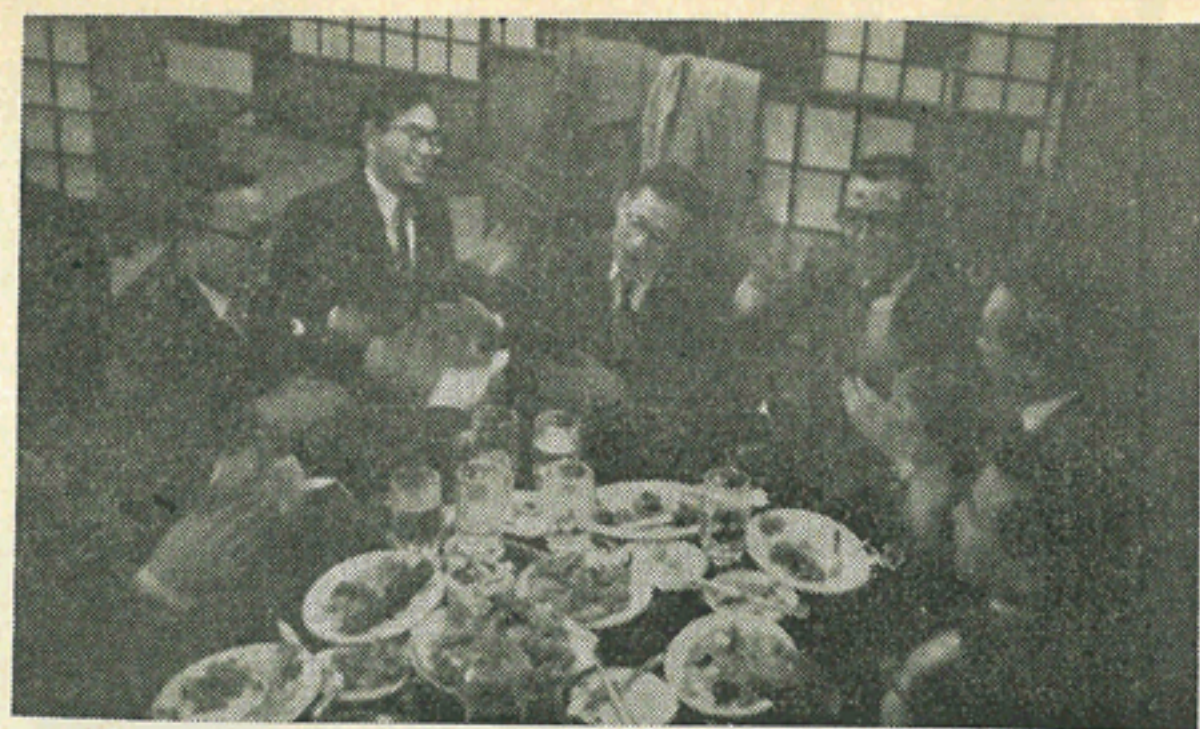
München ← 札幌 ← Milwaukee

(ミュンヘン) (サッポロ) (ミルウォーキー)



本場の味
サッポロ
日本麦酒株式会社

(姉妹品) リボンシトロン・リボンジュース・リボンコーラ



岐阜の今西氏(昭十五年)、東京の高田氏(昭十六年)など遠来組の話に、雰囲気は次第に北斗寮時代の自分を再現して行く。中川氏(昭十六年)立って北斗寮イズムを語り「伝説の創設者たる大先輩古関氏の記念碑を緑丘北斗寮跡に建てるべし」と結べば、万場感動の大拍手を以てこれに答える。まことに北斗寮でわれわれはよい伝統を学んだ。今日われわれの人となり、良い面ありとすれば、それこそ寮生活に負うところ少しとしないのではないだろうか。実に感激の一瞬であった。

特別参加の昭和三十五年田辺君や今年出たホヤホヤの小林君などの、最近の寮生活のスマートさの紹介があり、時代の流れに、われにかえる

思いをする。次いで卒業各期代表一人づつの思い出話に移り、更に細かく掘り下げて良き昔をしのぶ。この辺からピールは快よく体内を廻り、各代表とも、自分の時代にドッシリと坐りこんで、自己陶醉の境地にさまよう。しかし同じ寮での生活はこうも共鳴するかと思われる程、どの話しも年

「一寮会」不参の弁 山本健一 (昭一六後)

そもそも一月七日大阪駅にて岐阜在住の中川和行先輩と数年ぶりに特急「かもめ」に乗合せた奇縁で、一寮会をやるうではないかという話になり、それではというので各年度の先輩を歴訪したところ、是非やれとの御快諾に力を得て、ようやく三月十七日開催の段取りにまでこぎつけた次第であった。

ところが三月に入って、福岡に住む父の病状が思わしくなく、せめて数日間の看病だけでも福岡へ行つた帰路、計らずも自らが病床に伏す身となつてしまった。すなわち三月十一日大阪へ帰る車中突如として腹部に激痛を感じ、耐えられぬまま西宇部にて深夜途中下車し山口医大付属病院に入院、直ちに手術を受け、そのまま分病床に横たわる身となつてしまった。(急病そのこと自身は誠にツイてない次第だが、無選択に降りた駅で近くにしっかりした病院のあったことは不幸中の幸であった)

サア、気にかかるとは数日後に迫った「一寮会」のことばかり。しかし幸いすぐ様馳け付けてくれた会社の方に山内孝君への引継ぎ連絡を依頼することができて一先づホッとしました。

しかし、二十年ぶりに懐かしい寮の先輩諸兄に会えることを楽しみに奔走してきたのに、いまさら出席できなくなるなどとは、考えれば考えるほど情けなくて全くガックリと意気消沈した。だが、会は幸い大盛会でつたと寄せ書きをもらって何回も読み返しては病床のせめてものなぐさめとした次第。引受けて置きながら途中で投げざるを得なかつた弁明かたがた御迷惑をかけた御詫びを申上げる次第です。父はその後、あたかも小生の身体の回復するのを待っていたかの如く、四月八日遂に死去しましたが、なんだかしみじみと考えさせられるここの一月余りでありました。

代を超越してピンと心に響くから不思議だ。突然入口から拍手がわき、特別来賓の一寮大先輩畑氏(大正十四年)出席される。ひとまづ葦目幹事長からの紹介で、畑氏が古い古い北斗寮を語り、十八番のピールの呑み方の披露あり。ドットとわいたところで、舞台は次の演芸に移る。すでに意気

北斗寮OB会 20年前の寮生活も再現

大阪 ニューミュンヘンで



大正14年 畑信太郎氏

それは全く「夢の会合」であった。小樽に入學した時、黒い羽織、首にかけた白く太い紐、鬚むじやらの顔で寮歌を教え、寮生活の指導をしてくれた懐かしい人々。また伝統を承けついで下級生。このような人々ばかりが、大阪はニューミュンヘンの一室に続々と現われ、二十数年前の一寮コンパを再現することになった。だから、正に早春の正夢だった。

「よう」が挨拶で、固い握手、そのまま坐りこんで、語り合うグループの数々。東京、岐阜、名古屋、広島などから遠路この会のために馳せ参じた貴重な一刻なのである。

この「緑丘OB」は次のような経過で実現された。

先づ三月一日付、発起人数氏より全国に送られた案内状には、次の如く書かれていた。

「思えば緑丘を下つてより、戦中、戦後、幾多の波乱を越えた二十有余年の歳月は誠に長いものであります。が、また同時に昨日の日のことのように懐しく思い起す昨今でもあります。

その緑丘生活の中でも、特に心に焼きついているのは、北斗寮の生活であります。寮の窓辺にしのびやかに香っていたアカシヤ吹雪の夜のストロブの赤い暖かさ。古ぼけた建物に生々しく印したストロブの跡。そして、ここで強く培われた「北斗寮イズム」。

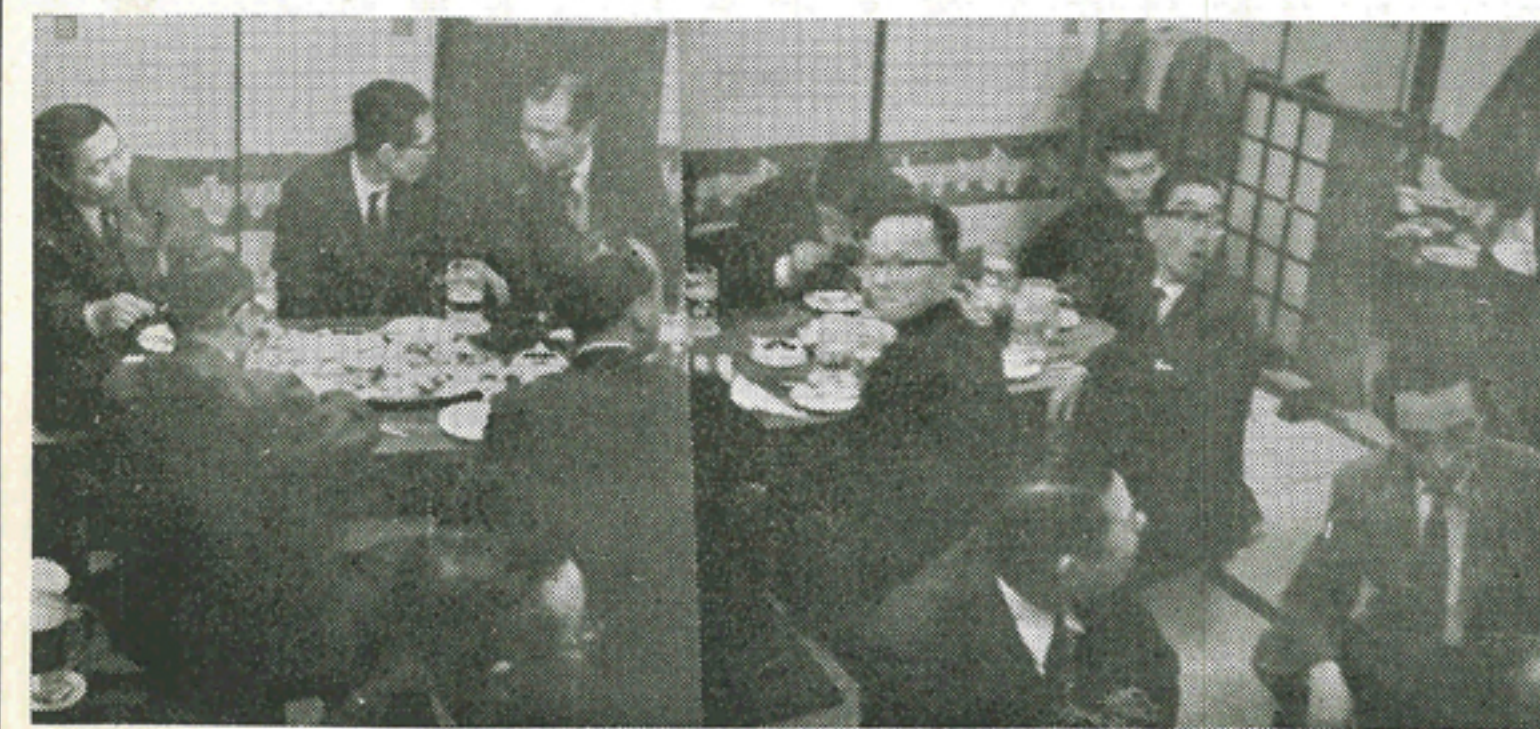
このような寮生活につながれた人達が、一生の中には必ず一堂に会すべきではないか、という強い希望の数々を聴くにつけ、この夢の実現のため有志等相諮り、一夕北斗寮OB会を催すことに致しました。なお今回は特にその中心年代と目される昭和十年―十七年卒あたりに焦点をしばって呼びかけることに致しました。

一寮O、B各位

この案内状の作成者は、熱心な山本健一氏(昭十六後卒)で各方面への調査の結果、該当者七十名に対し発送された。この熱意に応えて集った旧北斗寮生総勢二十四名、特別来賓葦目幹事長兼緑丘編集部長を加えてがて定刻となる。

このお膳立の大部分を整えた功勞者山本氏の急病欠席により、代つて同期の山内が司会となつて懇談会の宣言をなす。

開会の辞 北村幸氏(昭十四年) 昭和十一年代表三崎嘉郎氏の音頭によりグツと乾杯。サッポロピールの御厚意により寄贈された好意の泡が口もとに快よくつき、そして消え



た。山内の経過報告により、この会が実現して本當によかつたと、一同実感を強め、あらためて旧友の顔を眺め直す。

次いで自己紹介が昭和十一年卒より会員に廻る。一人一分以内、と注釈がついたが、嬉しい顔を前にしては、持ち時間超過組を続出の有様。だが皆ニコニコ顔だ。変り種は若山氏(昭十三年)で、自己紹介の代りに三崎、北村両氏の他人紹介をして結局自分の点数を稼ぐという、新戦略があり満場爆笑。

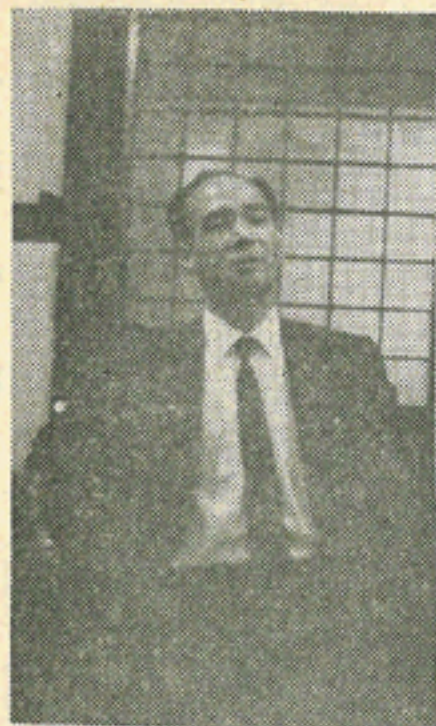
会社の記念用進物用に最適のネーム入り

最新型 **オネスト'66** スラチナ 萬年筆

尚美堂

梅田店 梅田地下センター (完成次第開店)

千林店 大阪市旭区森小路町8~46 TEL(951)5316 阿部敬作(昭17)



一寮会に参加して

中川 和行 (昭16)

大阪に住んでおられる昭和十六年
後期卒業の諸君の非常な御尽力で、
一寮の私ども昭和十六年前後の者が
真ん中になるよう
な集いに催され、
私もこれに参加さ
せていただけて楽
しい一宵を得まし
たことは本当に仕
合せであったと思
います。

卒業以来、時々
お目にかかった人
もあるにはありま
したが、ほとんど
の方々には全く二十
年ぶりの再会とい
うわけで、かつて共
に生活し共に語り
会った方々に、今こ
こでこうい

自己紹介の タイプいろいろ



うふうにお会いできて、つくづく
戦争に生き残って良かった。とい
う気持ちでした。それとともに私達
の年度の者が三名しか集れなかった
ことは申し訳ないような気もいたしま
した。

「緑丘出てから十五年」と歌にあ
りますが、この十五年を超える二十
年になっても、相も変わらず学生時代
のころとちつとも変わっていないで、
まるで北辰会が寮祭の集りに出たよ
うに、本当に若い時代に帰って先輩
の方々や後輩の人々と飲み喰い、か
つ語り合ったことは、やはりこうゆ
う種類の集りであったればこそ、と
感じた次第です。

この集りが契機となって、やがて
一寮に籍を置いたすべての年度の人



々が、せめて年に一回ぐらいは一堂
に集まれるようなことになったら、
さぞ面白いであろうと思いました。

高商の中で一番古く一番きたなか
った一寮ではあったけれども、われ
われの青春はこの中で燃焼し、われ
われの人間形成はこの中で醸成され
たのです。

時代はそれぞれが違ってはいても
それぞれの人々が各自の若かった時
代を、あのこわれかけた小さな建物
の中で思いきり生きぬいた歴史的現
実は、その一人々々の心の中で静か
に燃えつづけている筈です。そして
、その思い出の一寮はもはやなくな
ってしまいました。この思いは単に
中年に達したわれわれの淡い感傷に
過ぎないとはいえず、私自身はこの感



傷を大切にしたいと思うのです。
春四月、残雪未だ消えやらぬ頃、
寮の新聞室の窓をあけて、地獄坂を
上ってくる派手なスキー姿のメッチ
ェンの一群を眺めながら聞いたクロ
イツェル・ソナタの調べを、今も時
々わが家のレコードをならしながら
噛みしめている私は、もう過去を懐
しむ中年の心境になりきったのであ
ろうかと、ふと心の底に「かげり」
を感じるのですが、やはりそれが再
び明日への活動の源泉になっていく
事実を考えると、なんといいっても
「寮生活こそは私にとってかけがえ
のないどんな意味からでも私の人間
を創り上げてくれたところであつ
た」と今更ながら思い知る気持ちにな
るのです。



大いに上っているので、畑氏の「私
のラバさん」墓目氏の「追分節」、
阿部氏（昭和十七年）の「ヨカチン
節」など、地獄会そのものの至芸が
続出し、たまりかねたか、ニューミ
ュンヘンの彼女も飛び入りでよい咽
喉を披露する。遠来組も次々熱演を
練りあげこれに続く。

一息入れれば、坐席を代り合っ
て旧交を暖める話しはつきない。
全員起立での懐しの寮歌は、元応
援团长高田、二村氏等の音頭で始ま
った。ある者は目を閉じ、口を一ぱ
いに開いて心の底から歌う。涙の滲
み出るような感激である。

ついで学園讃歌、感激の歌、校歌
、応援歌など知っている限りの緑丘
の歌は、トップリ暮れた大阪の夜の
街に高く遠く響きわたった。そして
ストーム。またストーム。今宵時間
よ、われらのためにしばらくその動




きをやめよ!!名残りはつきない。万
才三唱に次ぐ閉会の後、次回の再会
を約しながら会場を後にする旧寮生
の姿は春宵の夢に酔っているかのよ
うだった。

- 出席者
- 大十四年 畑信太郎
 - 昭一一年 三崎嘉郎
 - 昭一二年 矢野正郎、内藤好生
 - 昭一三年 若山永太郎
 - 昭一四年 北村 幸
 - 昭一五年 今西信之、高田裕巳、富田千秋
 - 昭一六年 中川和行、高田勇、内海唯利
 - 昭一六年後 二村良一、星晃治、仰木巖
 - 昭一七年 阿部敬作、越智直行、大根一夫、大嶽英雄、山田鳳蔵
 - 昭三五年 田辺靖雄
 - 昭三七年 小林明夫
 - 特別来賓 墓目英三
- (山内記)

北斗寮全国大会をオリンピックの
(あと二年) 好期を選んで東
京で開催したいものである。名
簿の準備もあるので左記へ連絡
願いたい。

大阪市東区備後町二丁目野村
ビル
西日本紡績(株)内 山本健一宛



S-Light

営業品目 直流点灯式蛍光灯 高力率ネオン変圧器
(バス・各種自動車用・ 防災型ネオン変圧器
船舶用)

株式会社

三陽電機製作所

本社 岐阜市雲井町3の10 電話 代表③ 4135
工場 岐阜市上土井字狹間81 電話 ③ 6211~2
事務所 東京・大阪・福岡・札幌・仙台・広島

三陽商事株式会社

昭和133年卒 大阪事務所長 矢島 実
代 理

昭和16年前期卒 常務取締役 中川 和行
昭和16年前期卒 取締役 高田 勇
東京事務所長

案我記

杉山君の引退

越崎宗一 (大一一)

僕の学友杉山君は緑風会から出て全国区参議院議員を二期(十二年)つとめたが、先日東京であつたら今期一杯でもう次期には出ないという。僕がその理由をたづねたら緑風会も最近議員の数がグングン減り現状では自分の政治的意見が殆んど通らないから意味がないという。僕は杉山君のこの心境がよく分るような気がした。

現在の二院制の下では衆議院で先づ天下の二大政党が檜舞台で国民の心しゆくを買うような泥仕合が行

われ、漸くここを通つた議案が参議院に廻されてまた二大政党でいがみ合う。要するに喧嘩劇が二重に行われるだけで審議上の進歩がちつともない。政党が審議した議案を更に大御所からも検討する良識派はダンタン減つてしまふことが日本の政治にどうよいか。どうなるか。

僕は政党政治を非難する積りはちつともない。しかし天下の政党が堂々と自己の主張の下に議案を審議し

その通つたものに更に学識経験豊かな良識派が発言権(決定権ではない)をもつということは望ましいことではあるまいか。

参議院議員を選ぶのも参議院議員を選ぶのも国民である。もし国民が自分の代表を選ぶのに正しくない間違った選み方をしたならば不幸はその国民にかかってくる。選挙が国民の一人々々にとつていかに重大であるかが痛感される。

杉山君が僕の学友だから感情的にいうのではない。杉山君が節を曲げるなら自民党から出て当選できる可能性はある。しかし節を曲げずに次期は出ないところに杉山君のいい所があり僕は嬉しいのだがまた一面杉山君が引退を決意した所に僕は日本政治の淋しさを感じる。(小樽新聞)

コレポンの苦さん

参議院 全国区に立つ

コレポンの苦さんで通した三代校長の苦米地先生は今度の参議院に全国区から立候補されるといふ噂が耳に入った。

政治のことに無関心な私でもこんな話を聞くと七十才を越えた先生がよくもそんな馬力があるものだと感心し、何票採つたら当選するのだからとすぐ票読みをはじめた。何んぼなんでも今回で最後であろうし万一のことがあつたらどうしようと考え

案我記

るのはコレスボンデスのゼミナールをとつた一人として恩師を思う心は当然である。余生をゆつくり梅でも見てそして五月には孫と一緒に鯉のぼりでも仰いでいる先生の姿がほほえましく浮んでくる。しかし先生は国を思い、人のため働き通す頑固さは変らぬだろう。

の店子におだてられて立つたのである。別に弁舌さわやかでもなく、人のいい親爺がまんまと口ぐるまに乗せられて立候補した。投票の日が来て一票一票を子供心に敵と親爺の名の下に票数をつけて行つた。スリルという言葉がまだ普及してないなかつたころで正にスリルを味わつた。美事二番で町会議員様になつた。その時のスウーッとした気持はジャンプ合を離れてゆく気持にも似たもので当選した親爺自身の気持は何ものにも比較するものがなかつたろう。沢山の人が、そして投票したと思われぬ奴までがニコニコ笑つて祝つてくれた。

た。前回は二番だからと安心しておつた。母や私共兄弟はあぶないと思つて止めたが店子の政治狂には断念する勇気も起らず、倉庫の中で私を聴衆と見做して演説の稽古をはじめた。投票日がきた。開票だ。とうとう次点で落選にまいった。家へ来る人はなくさめの言葉であり。そして数人の人より玄関には来なかつた。父の顔をとても見てはおられなかつた。父は今なお元気で働いてるが、この選挙は父を四、五才もフケさせたことである。大正十年頃の話であるが母が高島易断が旅館にきているというので私の手を引いてみてもらひに行つた。「この子はどうでしょう」といふと「うーん、この子は将来政治家か外交官に向く六白の生れで月も六白だから」

案我記

の大立者三船十段やその門下、杉野ドレスメーカーという女性ファンを持つている。しかし都会の女性はチャッカリしているから御用心、やっぱり同じ緑丘の門をくぐつた親爺の女房が一番信用がおけるような気が

色彩談義

青くさき新緑の毒素は世に満てり

光太郎

有我栄一 (昭和八年)

青白き学生は、緑丘に満ち、満てり。これは、戦前の緑丘健児の公約的色彩ではあるまいか。

今はどうだ。パン食やら、学校給食やら、生活改善やらで、小学校時代からズーと概して衣食住の生活内容が洋式化し、合理化しつつあるの。背丈も充分スクスクと伸びている。……ただし染色体遺伝因子の關係もあってソレソレの伸び方には若干の相違もあるが、道産児(ドサンコ)ならば、幼な子の時からスキーやらスケートもやり、全国的にはボール投げや、バドミントンやら何やら、とにかくノビノビとしたスポーツが子供のころから行われており、小学校でも様々の体育が盛んに実施されているので肉體鍛練の面でも戦前よりも、大いに勉強していることなる。

案我記

すなわち、したがって、現在は戦

する。立つたからには是が非でも勝ち抜いていなければならない。苦さんは苦戦だとの声も聞くが押しの一手で是が非でも当選して下さ。と心から願うものである。小樽では後援会ができた今K君から手

紙がきた。札幌では百名余り集つて後援会の発会式をやるという。そして昭一五の卒業生の有志が中心になつて戦い抜くという。押しして押ししてしまつていなければならない。(コレボンゼミ)

空気の清浄なこと、空気の美味しいこと、……澄んだ空気が澄んだ空をみせる……

これに加えて、ピチピチとした学生さんたちには、特にアイキヨウのいいオタルのオトメ達……その瞳の輝やき、いや、そのアトモスフェアやムードのかもしれないソフトなおいりけ……これは、青年期にとつては、大変な課題である。

十八番……いまは、もうないそのであるが、直営ビヤホールでも、味わう生ビールのグラスにぶれる僕達の唇は紅色であつたのだが……グラスに映るゴールドンカラー、そうして……ホンノリとほつたクレナイの頬をなぶるヒンヤリとした宵の風とフト見あげる手宮の、山浪にピカピカと輝やくネオンサインのさまざま色彩など、おお、おお、何と色どりの多い小樽の街々であつたことよ。

冷暖房及び管工事全般設計監督施工

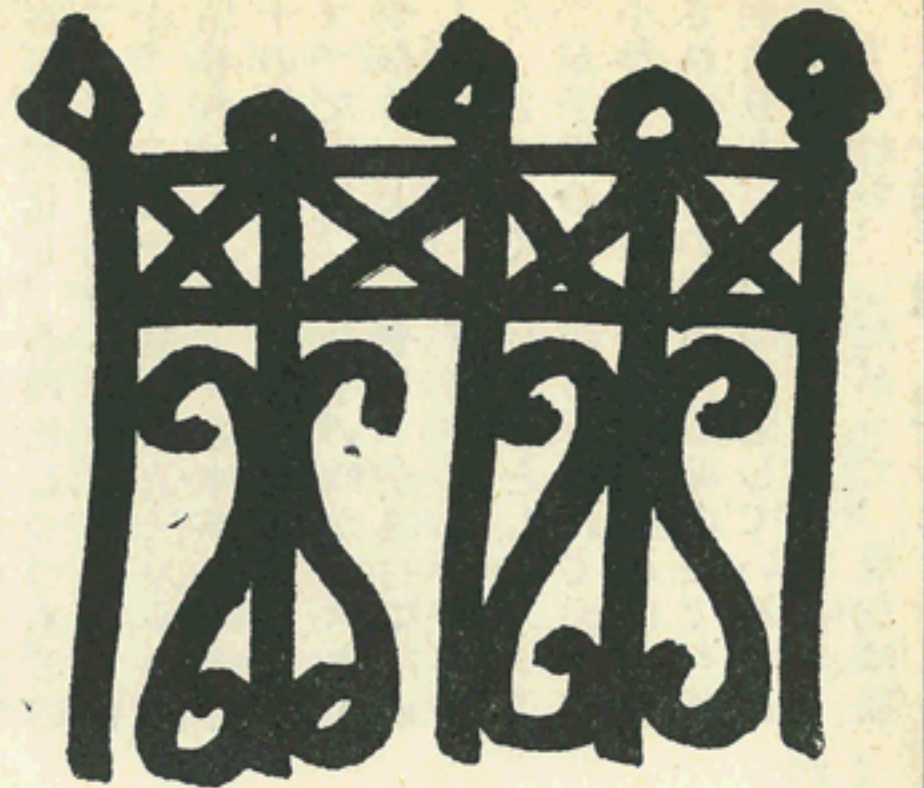
日邦工業株式会社

取締役社長 井 薬 政 市 相談役 宮 地 邦 介 (大11)

大阪市西区南堀江通1丁目2番地 電話大阪(630)2290 5616 2794番

工場 大阪市大正区南御加島町二丁目二七二番地

出張所 横浜市鶴見区東寺町七二五番地 電話 鶴見(54)2303番



新刊紹介

が整理されて、何となく身軽になったような気持ちです。これは本を書いたときの功德ともいえるべきものでしょう。

こんど東洋経新報社から、これまでの研究をまとめて、「アジアの民族主義と経済発展」という本を上梓いたしました。書物を出版するということ

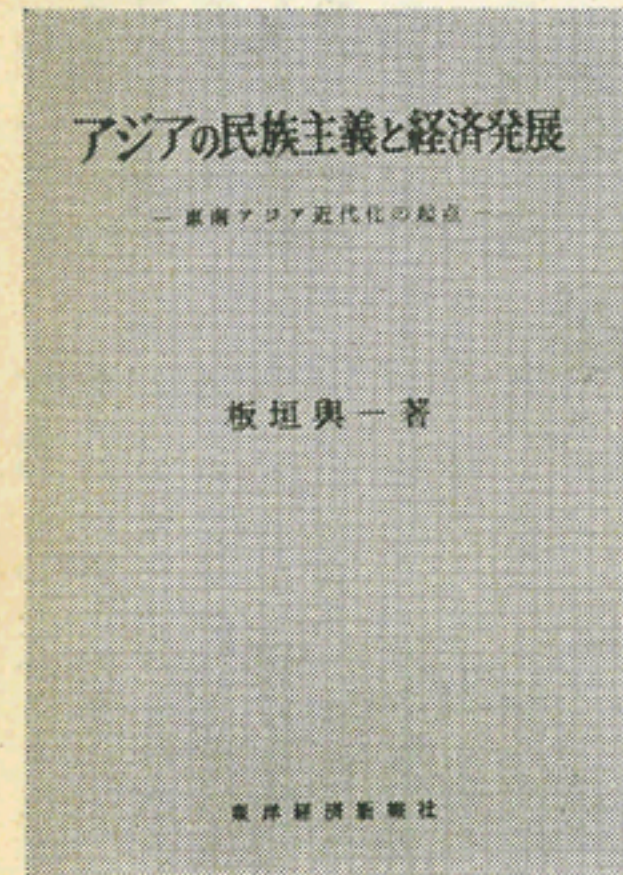
は、著者にとつては一種の魂の浄化も、これまで何かもやもやとしていた思想

内容案内

「この本は、中国を除くひろい意味での東南アジア地域諸国のナショナリズムの本質規定と、それとの関連における経済発展の基本問題点を明らかにし、アジアの政治的・経済的・文化的近代化の方向、態様、規模、速度に関する問題所在をつかみ、もって後進国発展の理論構成と政策設定にあたっての考察の座標を、示唆しようとする試みたものである」

アジアの民族主義と経済発展

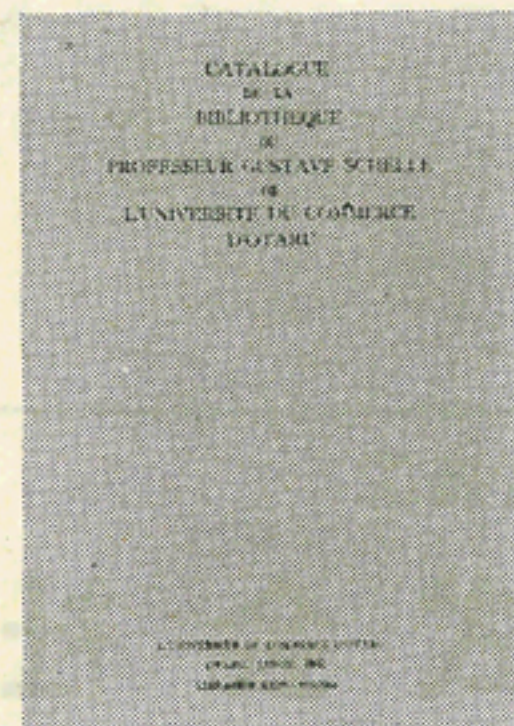
一橋大学教授 板垣与一著 (昭3)



シエル文庫二、〇〇〇冊の総目録

浜林教授の編集で完成

昭和三十一年小樽商大が四十五周年を迎えた時、このシエル文庫の目録編集を計画したと聞く。勿論全文フランス語でありこの整理は並大ていの業ではない。



と手塚さんへの手紙に書いてあった」と述べているが、今回のシエル文庫が学長の序文(仏文)とともに全世界の有名大学校へ一部宛寄贈され、間もなく大きなこととなって帰ってくるであろうし世界の学者も日本の小樽商大の存在を見直すチャンスでもあろう。

目次
第一編 アジアの民族主義
第一章 植民地民族政策の形態
第二章 植民地民族主義の展開
第三章 アジア・ナショナリズムの現代的課題
第二編 アジア経済の発展理論
第四章 経済的後進性と開発理論の問題所在
第五章 「二重経済理論」の批判と展開
第六章 後進国開発の戦略と政策
補論 後進国開発理論の問題意識
第七編 アジア近代化の課題
第八章 インドのルネッサンスと宗教改革
第九章 イスラム社会の近代化と経済理論
A5判三三八頁
函入一、二〇〇円
五月二十七日(二十一日)朝日ジャーナル(八三頁)に
「後進国近代への道」と題して
東大助教授 水田侃氏の書評あり

大野の謝恩会を開く

小樽 山本信爾

去三月十五日母校小樽商大卒業式が行われましたが、東京本部より、佐々木理事長御来樽を仰ぎ一段の華を添えられたわけですが、引続き午後四時より市内豊楽苑で常任理事会を開催、更に終了後、今般前学長大野教授の御退職にあたり謝恩会を同荘において開催、理事長よりの御挨拶に対し大野氏より過去四十年にわたる学園生活の懐古談、殊に南大昇格の経緯をのべられる頃には満場声一つなく同氏の当時の御苦勞のほどが今更ながら身に浸みる憶がしました。

拝啓 春暖の候益々御健勝のこととお慶び申し上げます

このたび小樽商科大学を停年により退官いたしました。大正十一年以来在任中は多年に亘り公私共御芳情と御後援を忝うし洵に有難く厚く御礼申し上げます。なお今後とも御眷顧御交誼の程お願いいたします。略儀ながら寸楮をもって御礼傍々退職の御挨拶申し上げます。

昭和三十七年四月

小樽市入舟町九丁目十三番地

大野 純一

私儀

大野純一先生退官記念特集号を発刊したいと思います。学生時代の思い出を御投稿願います。一行十六字(枚数)制限なし。締切 六月十五日

異動

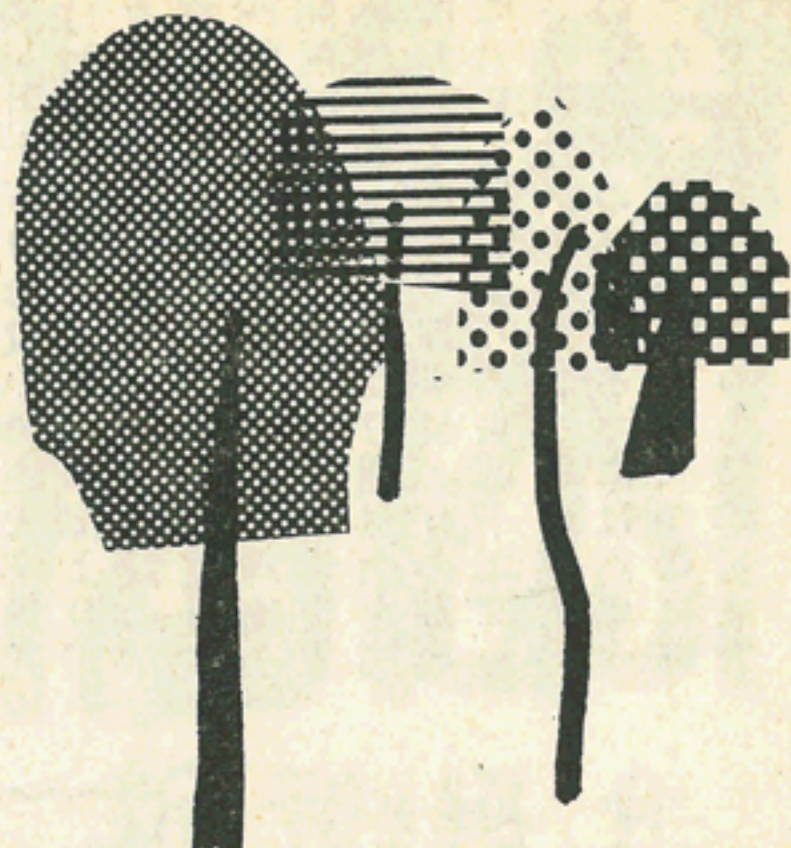
- 勤務先又は住所移転
五十嵐晃(昭一一)
(新)東京都杉並区松ノ木町一、一七五
阿部 保(昭八)
(新)大阪市北区中之島三の五(三井ビル)三井生命大阪総局庶務課

栄転

- 渡辺泰助(昭一四)
(新)青森市本町二丁目一二(町名番地変更)
森 隆郎(昭八)
(新)横浜市港北区日吉町一番地
田中弥三郎(大一一)
(新)吹田市千里山松ヶ丘十五番地
篠田正義(昭一九)
(新)名古屋市中区一条町二ノ一〇
伊原利勝(昭一四)
第一銀行外国部付調査役から東京西銀座支店長に
小田島和夫(昭三一)
日本薬株式会社営業部から調整部調整課へ
鈴木一雄(昭八)
日中貿易促進会専務理事から理事長に
佐々木利七(昭八)
青森酸素製造株式会社へ勤務
矢野正郎(昭一一)
国際航空株式会社(社名変更)株式会社阪急交通社東京主管営業所長に 東京都千代田区有楽町一ノ三
望月鷹雄(昭七)
明治生命保険相互会社名古屋支社から東京本社団体保険部長に
手塚寿一郎(昭)
日本生命札幌支店から大阪本店市場課へ
鈴木丙午郎(昭三)
小樽市役所を退職し株式会社光合金製作所常務取締役任

(二三頁から続く)

なお同日札幌北野家において六時より佐々木理事長の歓迎会を開催。支部長の富樫長吉氏をはじめ約二十名参集し、同席の苦米地先生とともに盛会を極めた。席上理事長は小樽と同様の趣旨の挨拶を述べて緑丘人の奮起をうながした。



伴先生書翰集

皆様の御申込を待つ

「あなたの追憶原稿と先生のハガキを収録して」

伴先生書翰集刊行委員会(到着順)

(氏名)	(支部名)	希望冊数
中津 正之	函 館	二
渡辺 羊三	稚 内	一
小 計	二名	三冊
前回計	六〇名	七九冊
総 計	六二名	八二冊

伴先生書翰集発刊に踏みきると昨三十六年六月に「緑丘」に発表してからもう一年を過ぎようとしております。

(申込) 書翰集ができたら一冊欲しいという方が六二名になりました。何卒左記宛ハガキで御申込いただきますよう御願ひ申し上げます。

(原稿) 原稿もまだ充分とはいへませんが「ハガキ」をお持ちの方は四〇〇字詰原稿用紙に書きうつして(貴重なハガキを失ってはいけませんので)先生からハガキをいただいた前後の模様と簡単な解説を原稿用紙にまとめて御送り下さい。

- (1) 写真 第一部 書翰集
- (2) 第二部 先生の追憶集
- (3) 年 譜
- (4) 年 譜

予定価格は五〇〇円と考えております。(原稿送附先) 兵庫県西宮市清水町九の二 伴先生原稿」と表記願ひます。

昭和十五年一月六日付(東京発信)

伴先生より渡辺羊三宛

拝復 小生ハ去月又表記之地ニ移リマシタガ東京ノ場末ニ近ク知人モアリマセンノデ正月ニナリテモ小樽ノ生活ヲ回想シテナツカシク思ヒマスガ御年賀状ニ接シテハ御卒業ノ当時就職難ノ時代御互ニ悩ミシコトガ思ヒ出シマシタ。今デハ卒業生ノ素行宣シク遊ブ人モナイトノコトデ何トシテモ今ノ人ハ幸福デアルト申サネバナリマセン。併シコレハ一応ノ判断デス。人間ノ真ノ幸福、不幸ハ永キ眼デ見ナケレバナリマセン。貴君ハ真面目デアリマス。教師トシテ適任ノデアリマス。教員ハ収入ガ少イト云フコトデス。地位モ動キガ少イデス。併シ真ノ教育者ニハ夫レハ重要ナ問題デアリマセン。唯其職務ヲ充分ニ果ス人ノミガ真ニ幸福デアルト申スベキデス。教育者ノ待遇モ其内ニハ改良ラレマセウカラ、其時ヲ期シテ充分ニ職責ヲ尽サレンコトヲ望ミマス。教師ノ一番大切ナルコトハ生徒ニ親切デアルト云フコトデスト此一言ヲ附記シテ置キマセウ。

北海道稚内商業高校長

渡 辺 羊 三

(昭 三)

一月六日

東京市大森区調布千鳥町六四二 伴 房 次 郎

昭和三年、母校卒業後、伴校長先生の御尽力により札幌市の高等小学校商業科専科教員として、昭和十五年八月まで勤務しておりましたが伴先生御退職、御上京の由を承り年賀状を差上げました処、このような懇切な御返書を頂き感激いたしました。その後の私の教育界におけるあり方についても、色々迷い等の生じたとき、このハガキを出して伴校長先生から直接御教示頂くような気持ちで味読しておりました。従って今日まで大切に保存していたわけです。



「伴先生のハガキ」から

京都中学時代の伴先生

寺 田 弥 一 郎

(大 一〇)

戦後先生から頂いた書翰三十余通を反読する機会を得て大略区分すると、病氣見舞あり、人生観あり、宗教観あり、その他金婚式の所感、在職二十八年間の回想、緑丘諸兄の招待感謝、亡妻への追慕、少年時代の追憶等々その内容は極めて多彩である。このうち何れを摘記すべきか、実は聊か迷ったが、多数の書翰中には同工異曲のものもあろうかと察しなるべく重復を避けるため、ここには先生の御郷里が京都であり、遠き昔その中学生時代の想い出を述べたれた類笑ましい部分に興味を覚えたので、左記二通を選ぶことにした。

(一) 昭和二十七年八月十七日付「拝復 御見舞難有御礼申上マス(中略) 祇園祭ハ先月デシタカ、中学生トナリテ此祭ヲ見マシタ時ノ暑サト、エンヤラヤノ掛声ト共ニ扇子ヲ振ル手ブリヲ今モ思ヒ出シマス。次ハ市中ヲ歩キ廻リ、金屏風ノ装飾ノ豪華ヲ眺メ、薄桃色ノ下着ノ透キ通ル京ノイトハン達ノ美シサヲ凝視シタモノデス。中学三、四年ノ頃鳩居堂ノ向ヒノ長屋風ノ借家ニ小サキ

道具屋ガ有リマシタ。深水ノ絵カラ出タカト思ハレル細腰ノ美人ガ居リマシタ。浴衣姿ガ殊ニ宜シク京極行キノ途中ニ此美人ヲ一目見ルノガ何ヨリノ楽シミデ頭ハ暗ニ左向ケシテマシタ。京極ハ今モ賑フコト、存ジマス。三条ノ絵草紙屋ハ今モアリマス。其下隣ノ金魚亭ノ汁粉ハ一銭、上等スマシ善哉ハ二銭デ、散歩ノ帰リニヨク立寄リマシタ。中学時代ハ落語ヲ聞イテ大イニ面白ク思イマシタ。其席ハ何ト申シタカ記憶シマセン。或日落語ヲ聞カント思ヒ大急ニテ参リ、木戸銭ヲ払ヒテ入ッテ見ルト様子ガ違フノデス、ソレハ余リニ急ギテ席ヲ間違ヘ娘義太夫ノ席ニ飛ビコンダノデシタ。閉口シテ飛ビ出シマシタ」(後略)

街として昔も今も繁榮して居る。鳩居堂は筆墨の老舗として存続し、金魚亭は現在その姿を消してしまつた。

(二) 昭和二十九年十月二十日付「拝啓 秋深クナリマシタ(中略) 小生ハ先月二十日ニテ満八十才ニ達シマシタ。過去ヲ思ヒ昔ヲナツカシム日ガ多イデス。毎年十一月三日ハ観楓ト定メテ單身梅尾ニ行キマシタ、中学時代デス。其時代ニ誘ハレテ俄ニ茸狩ニ行キシコトガアリマス。場所ハ銀閣寺方面若王寺ノ後デシタ。三人ガ五十銭ツツ出シ合ヒ一円五十銭デ山ヲ買ヒマシタ。狭キ繩張りノ中デスガ其中ニ踊リ松茸密生群ヲ発見シ、意外ノ獲物デ用意ノ風呂敷デハ足リマセン。時ニ年配ノ指揮者ノ發案デ各ズボン下ヲ脱ギ之ヲ入レ首ニカケテ帰リマシタ。ズボン下ハ堅綿ノ木綿チジミデ下部ヲ紐デシバル兵隊式ノモノデシタ。全ク臨機ノ妙案デ道ヲ違フ人モ其思ヒ付キヲ賞メマシタ。当時ノ京都中学ハ府立ト称シテモ東本願寺ガ支持シテマシタカラ、生徒ハ半分坊主デ、諸國カラ集マリ年令モタケテマシタ。世故ニモ通ジテマシタ。小生ハ釜座近傍ノ寺ヲ間違シテ自炊シテマシタ。室代ハ月一円、米ハ自弁デ月二十五銭デ炊イテクレマシタ。土曜日ハ贅沢日デ牛肉デス。中肉三錢葱五厘デス。或日奮発シテ最上肉ヲ買ヒマシタ。余リウマイノデ大イニ食フタシ見ヘテ忽チ肉ガ見ヘナクナリマシタ。小生ハ上肉ハ煮ルトトケルモノカト思ヒマシタ。五年生ノ頃ハ寺町丸太町ニ下宿シ、一日ト十五日ニハ

オヘコノ群ガ賑カニ通過スルノヲ二階カラ見下シマシタ。土曜ハ必ズ伏見ヘ帰リマシタ。九条カラ竹田口ノ街道ヲ通行シマス。川東ハ稀デシタ。或時鴨川ノ東岸ヲ下リ行キ祇園ハマダヨイガ、宮川町?ニハ驚キ、学校帽ヲ懐ニカクシ急歩、赤イ顔シテ通過シタノヲ今モ忘レマセン。途中五条デ饅頭一包二錢デ買ヘバ土産ニナリマシタ。京都デハきつねうどんガウマイデス。他國ヨリ慥ニウマイ、二錢カ二錢五厘デシタ。校長時代七条ノ駅ニテ狐うどん屋ヲ見ツケテ立食シマシタ。果シテ昔ノ味ヒデシタ」(後略)

【註】この書信を頂いた翌月に御令室は逝去されたのである。爾後先生の書翰は悲しみに満ちたものが多くなり、我れ衰えたり、谷中に墓地を拵えた。死期迫るを予知す、など厭世的辞句を見受けるようになった。文中の京都中学が半ば坊主学校であったのは私も初めて知つたが、恐らく後の府立一中の前身ではあるまいかと考えられ、年代は明治憲法発布前後、即ち先生十七、八才の頃である。土曜日は伏見に帰るとあるは、御生家が京洛周辺地区の伏見向島中島村に在りて、地理的に通学不便のため市内に下宿し、毎週一回徒歩で帰宅されたものらしい。因に京都市電は当時まだ敷設されていなかった。また文中随所に散見する明治中期の物価水準を参照するとき、現代の高物価と対比して隔世の感あり、明治は速くなりけりの感慨一入である。

栗高校長
辺 羊 三
(昭三)

日
市大森区調布千鳥町六四二
伴 房 次 郎

年、母校卒業後、伴校長先
力により札幌市の高等小学
専科教員として、昭和十五
で勤務しておりましたが伴
職、御上京の由を承り年賀
げました処、このような懇
書を頂き感激いたしました
私の教育界におけるあり
ても、色々迷い等の生じま
、このハガキを出して伴校
ら直接御教示頂くような気
しておりました。従って今
切に保存していただわけで



「伴先生のハガキ」から

お申込を忘れずに!

三十七年度第一号を御届けします。
皆様から続々御申込(五〇〇円を添付)をいたゞいており
ます。
振替用紙でどうぞ今すぐ御手配願います。

大阪一七七五二(口座番号)

緑丘編集部宛

次号は大野前学長退官記念特集号で御座いますからなにと
ぞ御投稿下さい。

原稿締切 六月十五日 (二行十六字で)

緑丘編集部

大阪市東区道修町三丁目十二番地

塩野義製薬株式会社内

編集責任者 藁 目 英 三

緑丘

あなたからはまだです

伴先 (氏)
中津 渡辺
三十 伴
から ます
申 (申)
いと 何卒
ます (原)
せん (原)
○字詰原稿用紙に書きうつして(貴
重なハガキを失ってはいけませんの
で)先生からハガキをいただいた前
後の模様と簡単な解説を原稿用紙に
まとめて御送り下さい。

す。
(原稿送附先)
兵庫県西宮市清水町九の二
藁 目 英 三 宛
「伴先生原稿」と表記願います。

時ヲ期シテ充分ニ職責ヲ尽サレンコ
トヲ望ミマス。教師ノ一番大切ナル
コトハ生徒ニ親切デアルト云フコト
デスト此一言ヲ附記シテ置キマセ
ウ。

「伴先生のハガキ」から

京都中学時代の伴先生

寺田 弥 一 郎

(大10)

戦後先生から頂いた書翰三十余通
を反読する機会を得て大略区分す
と、病氣見舞あり、人生観あり、宗
教観あり、その他金婚式の所感、在
職二十八年間の回想、緑丘諸兄の招
待感謝、亡妻への追慕、少年時代の
追憶等々その内容は極めて多彩であ
る。このうち何を摘記すべきか、
実は聊か迷ったが、多数の書翰中に
は同工異曲のものもあるかと察し
なるべく重複を避けるため、ここに
は先生の御郷里が京都であり、遠き
昔その中学生時代の想い出を述懐さ
れた類笑ましい部分に興味を覚えた
ので、左記二通を選ぶことにした。

(一) 昭和二十七年八月十七日付
「拝復 御見舞難有御礼申上マス(中
略) 祇園祭ハ先月デシタカ、中学
生トナリテ此祭ヲ見マシタ時ノ暑サ
ト、エンヤラヤノ掛声ト共ニ扇子
ヲ振ル手ブリヲ今モ思ヒ出シマス。
次ハ市中ヲ歩キ廻リ、金屏風ノ装飾
ノ豪華ヲ眺メ、薄桃色ノ下着ノ透キ
通ル京ノイトハン達ノ美シサヲ凝視
シタモノデス。中学三、四年ノ頃鳩
居堂ノ向ヒノ長屋風ノ借家ニ小サキ

道具屋ガ有リマシタ。深水ノ絵カラ
出タカト思ハレル細腰ノ美人ガ居リ
マシタ。浴衣姿ガ殊ニ宜シク京極行
キノ途中ニ此美人ヲ一目見ルノガ何
ヨリノ楽シミデ頭ハ暗ニ左向ケシテ
マシタ。京極ハ今モ賑フコト、存ジ
マス。三条ノ絵草紙屋ハ今モアリマ
スカ、其下隣ノ金魚亭ノ汁粉ハ一銭
、上等スマシ善哉ハ二銭デ、散歩ノ
帰リニヨク立寄リマシタ。中学時代
ハ落語ヲ聞イテ大イニ面白ク思イマ
シタ。其席ハ何ト申シタカ記憶シマ
セン。或日落語ヲ聞カント思ヒ大急
ニテ参リ、木戸銭ヲ払ヒテ入ッテ見
ルト様子ガ違フノデス、ソレハ余リ
ニ急ギテ席ヲ間違ヘ娘義太夫ノ席ニ
飛ビコンダノデシタ。閉口シテ飛ビ
出シマシタ」(後略)

街として昔も今も繁榮している。鳩
居堂は筆墨の老舗として存続し、金
魚亭は現在その姿を消してしまつ
た。
(二) 昭和二十九年十月二十日付
「拝啓 秋深クナリマシタ(中略)
小生ハ先月二十日ニテ満八十才ニ達
シマシタ。過去ヲ思ヒ昔ヲナツカシ
ム日ガ多イデス。毎年十一月三日ハ
観楓ト定メテ單身梅尾ニ行キマシ
タ、中学時代デス。其時代ニ誘ハレ
テ俄ニ茸狩ニ行キシコトガアリマ
ス。場所ハ銀閣寺方面若王寺ノ後デ
シタ。三人ガ五十銭ヅツ出シ合ヒ一
円五十銭デ山ヲ買ヒマシタ。狭キ繩
張りノ中デスガ其中ニ踊リ松茸密生
群ヲ発見シ、意外ノ獲物デ用意ノ風
呂敷デハ足リマセン。時ニ年配ノ指
揮者ノ発案デ各ズボン下ヲ脱ギ之ヲ
入レ首ニカケテ帰リマシタ。ズボン
下ハ堅固ノ木綿チジミデ下部ヲ紐デ
シバル兵隊式ノモノデシタ。全ク臨
機ノ妙案デ道ヲ違フ人モ其思ヒ付キ
ヲ賞メマシタ。当時ノ京都中学ハ府
立ト称シテモ東本願寺ガ支持シテマ
シタカラ、生徒ハ半分坊主デ、諸國
カラ集マリ年令モタケテマシタ。世
故ニモ通ジテマシタ。小生ハ釜座近
傍ノ寺ヲ間借シテ自炊シテマシタ。
室代ハ月一円、米ハ自弁デ月二十五
銭デ炊イテクレマシタ。土曜日ハ糞
沢日デ牛肉デス。中肉三錢葱五厘デ
ス。或日奮発シテ最上肉ヲ買ヒマシ
タ。余リウマイノ大イニ食フタト
見ヘテ忽チ肉ガ見ヘナクナリマシ
タ。小生ハ上肉ハ煮ルトトケルモノ
カト思ヒマシタ。五年生ノ頃ハ寺町
丸太町ニ下宿シ、一日ト十五日ニハ

オヘコノ群ガ賑カニ通過スルノヲ二
階カラ見下シマシタ。土曜ハ必ズ伏
見ヘ帰リマシタ。九条カラ竹田口ノ
街道ヲ通行シマス。川東ハ稀デシ
タ。或時鴨川ノ東岸ヲ下リ行キ祇園
ハマダヨイガ、宮川町?ニハ驚キ、
学校帽ヲ懐ニカクシ急歩、赤イ顔シ
テ通過シタノヲ今モ忘レマセン。途
中五条デ饅頭一包二銭デ買ヘバ土産
ニナリマシタ。京都デハきつねうど
んガウマイデス。他國ヨリ慥ニウマ
イ、二銭カ二銭五厘デシタ。校長時
代七条ノ駅ニテ狐うどん屋ヲ見ツケ
テ立食シマシタ。果シテ昔ノ味ヒデ
シタ」(後略)

【註】この書信を頂いた翌月に御令
室は逝去されたのである。爾後先生
の書翰は悲しみに満ちたものが多く
なり、我れ衰えたり、谷中に墓地を
拵えた。死期迫るを予知す、など厭
世的辞句を見受けるようになった。
文中の京都中学が半ば坊主学校であ
ったのは私も初めて知ったが、恐ら
く後の府立一中の前身ではあるまい
かと考えられ、年代は明治憲法発布
前後、即ち先生十七、八才の頃であ
らう。土曜日は伏見に帰るとある
は、御生家が京洛周辺地区の伏見向
島中島村に在って、地理的に通学不
便のため市内に下宿し、毎週一回徒
歩で帰宅されたものらしい。因に京
都市電は当時まだ敷設されていなか
った。また文中随所に散見する明治
中期の物価水準を参照するとき、現
代の高物価と対比して隔世の感あり
、明治は速くなりけりの感慨一入
である。

まんびつ五人集

まんびつ五人集

次回

井正三 (大八)
 屋龍一郎 (昭一一)
 川孝一 (昭一一)
 西辰男 (昭一四)
 井武 (大一一)

二度の勤め

漢 静男

(神戸支部)



札幌の横井君からのパ
 トン・タッチで再度筆を
 とることになった。
 二度の勤めと云うと、
 ちょうど小生も同じ「カ
 ネ」ではあるが、銀行から鉄鋼会社
 の勤めへ変ってちょうど四年目、し
 かも貸手から借手になると云う、百
 八十度の転換で、この史上にない
 云う金融引締めを遭遇し苦戦中であ
 る。他人からは「こんな時には銀行
 出身でしょうから一番働きたいでし
 ゃう」等と云う、御意見ともお賞め
 ともつかないお言葉を時々頂戴して
 ヒヤツとしている状態である。
 が、さて実際には金融事情がなま
 じつか解るだけに、遂々交渉のホコ
 先が鈍る傾向にもあるもので、反省と
 苦慮を重ねているのが今日の偽らざ
 る心境である。ときに三度の勤め
 で、貸金の方に廻ったらどうするで
 あるるか、産業界の事情が又なまじ
 つか解るだけに、より積極的になる
 だろうか。また反対に憶病になるだ

ろるか、等と余計なことまで考えさ
 せるほど今日の日本経済は複雑きわ
 まりない姿である。
 さて今年は一跳千里を行くと云う
 虎年で、普通なら躍進また躍進と云
 う景気の良いエトであるが、不幸に
 してこの能力を持つ虎どもを「オリ
 」の中に入れ、じつとさせ、しかも
 能力を低下させずに、時の来るのを
 待たせると云う時代に入ってしまった
 たのである。
 経営陣におけるスタッフ部門担当
 者の英知、英断が今日ほど重要な秋
 はないと考えているが、さて妙手、
 妙案はないものか？
 「冬来りなば春遠からじ」真夏か
 ら冬籠りの準備をし、雪解けの春の
 活躍を期待し、それを実行に移して
 来た緑丘人がいよいよその真価を発
 揮出来る時代が近かづいて来つつあ
 るような気がしてならない。各位の
 御健斗を祈る次第である。
 次は経営診断の名医である小樽の
 戸井正三先輩にお願いします。
 (昭三卒 神戸製鋼所常務取締役)

ニセコ・天狗のあいだ

越崎 清二

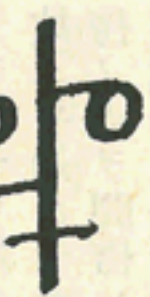
(小樽支部)

田中君から「次回
 のパトン・タッチは
 君だよ」と電話で宣
 告を受けたのは、ま
 だ粉雪のちらつく頃であったと記憶
 している。雪解けのドロコ道が漸
 く姿を消して半年ぶりに歩道の感触
 をたのしむようになった昨今、送付
 を受けた「緑丘」二十四号をめぐっ
 て見ると、間違ひなく私の名前が四
 つの活字におさまっている。印刷文
 字と云うものは妙に強制力を持つも
 ののようだ。もつとも富尾君の場合
 のように黒枠入りとなつては最高の
 威力と云わざるを得ない。いさぎよ
 くパトン・タッチを受け継ぐことと
 して、田中君の於古発スキー行に刺
 戟を受けて在学中三冬を過ぎたニセ
 コ合宿の思い出や最近の天狗山の模
 様などをお伝えすることしよう。
 入学当初の昭和八年暮、山岳部先
 輩の梶田正男氏、花田健次郎氏等を
 リーダーとして初めて白銀のニセコ
 連峰にシュプールを印した時のこと
 である。合宿二、三日目、最後のチ
 セスプリ登頂を了えて夕暗迫るころ
 合宿所へ近づくと従って日ノ丸の掲
 揚されたのを見て、皇太子殿下の生
 誕を知ったわけであった。過ぐる昭
 和三十五年四月十日の御成婚のテレ

ビ実況に見入りながら、二十数年前
 ニセコ山中での御生誕のニュース報
 道は、二、三日も経過した後のこと
 であった。當時を回想して感慨深き
 を覚えたのは私一人ではあるまいと
 思う。次年度の昭和九年暮は阿倍武
 道氏などをリーダーとし、そして三
 年目の昭和十年度には今は故人とな
 った桜嶽雄君や小生、本間誠一君な
 どが今度はリーダーを仰せつかる順
 番であった。昨今のリフトを利用し
 ての、いわゆる楽しむスキーとは幾
 分異つて、当時のニセコ合宿などは
 、リーダー・アシスタントの間に全
 員が整然と並んで行動する、冬山を
 たのしむ心境には変りはないとして
 一種の訓練的要素が含まれていたよ
 うに思われる。体力の弱い者を基準
 として、落伍者のないように全体的
 行動、訓練にとめる——これは今
 にして考えると極めて民主的訓練法
 とも云えようが、引卒されたものが
 いっしかりリーダーに代る仕組も暗黙
 の裡に行動をして伝へられ、また習
 得されるものと云つた風であった。
 今は故人となつた先輩の阿倍武道氏
 が「三カ年間学問上に学んだことに
 劣らず、山で得た体験は人生上の収
 獲である筈だ」と云つた言葉が今な
 お耳の底に残っているように思われ

まんびつ五人集

まんびつ五人集



オールベルグ・スキー術の開祖、
 高橋次郎さんも既に亡く、学校の裏
 山で親しく手ほどきを受けたシユテ
 ム・ボーグンの伝統を未だに保持し
 て、単板スキーに骨折を免れている
 のも御身大切スキーには好適と思わ
 れる。夏山、九十九体の地蔵尊を数
 えて登った天狗山は、今ではスキー
 リフト八分間で頂上に達する。昭和
 十年前後、ハンネス・シユナイター
 氏来樽の当時は氏に続いて天狗の壁
 を下る熟達者は数えるほどしかいな
 かった由と聞いているが、今はその
 壁を高校生がヤッケの色鮮かに、い
 とも易々と飛燕のように上り下りし
 んでいる。昭和二十七年二月には第
 七回の冬期国体、今年二月には第十
 七回のそれと、戦後二回にわたって
 国体スキー大会々場となり、天狗山
 も郷土スキー大会から名実共に国立ス
 キー場へ変貌しつつある。今年の国
 体最終日の去る二月二十五日図らず
 も天狗中腹で根本北郎君(札幌・三
 井鉦山)とパツタリ出逢い、ともに
 下りコースを楽しんで別れた。

ある。「パリーのような建物も街路
 も、何から何までが数百年を経た旧
 い街の中に生活している折には、天
 狗山の笹葉に吹く風の音などが無
 性に恋しくなるものだよ、君」と云
 われたのはその折であつたかと記憶
 している。
 最後に三カ年を夏山、冬山ともに
 歩き廻った桜嶽雄君が終戦直前、比
 島で戦死されたことは、私にとつて
 はかえすがえす遺憾に堪えない。同
 君がノモハンでの戦傷が癒えてチチ
 ハルの官舎居住間、郊外の関東軍東
 弾薬庫衛兵司令として勤務の途次、
 同君を訪れたのが最後であつたらう
 か。同期の逸材たりし渡辺耕一君も
 ニセコ合宿に加わつたのは昭和九
 年、二年生の暮であつたかと記憶し
 ている。御遺族の動静を御存知の方
 は連絡を賜りたい。
 次回は大阪、シエル石油の土屋龍
 郎君にお願い致します。

漫筆三題

本間 英作

(北海道)



昨夜の更けるを忘れ、「友あり遠方よ
 り来たる」と暖く歓待された思い出
 は近來にない感激であつた。戦争の
 犠牲となり大なり小なり運命を狂わ
 せられた私共は、幾
 歳月を経て生きのびた流転の人生を
 思ひ懐旧の情切々たるものがある
 た。再会のたのしさと謂うべきか。
 北海道は地域も広く、同窓生も多
 すぎるせい、か、まとまりが劣るよう
 感じられる。私の町では昭和九年の
 寺尾八郎先輩と私の二人だけで淋し
 いもので、会員同志心と心のつな
 がり深い大阪支部の同窓会活動には
 深い敬意とやらやましさを禁じ得な
 い。御発展を祈つてやみません。

終戦直後民主主義はなやかかなりし
 頃、講演会の講師に南亮三郎先生を
 御招きして拙宅に御泊り願つたこと
 があります。その折、先生から「本
 間君、子供は酒に酔つた時つくと
 はいけない。酒を飲んだ時の子供は
 頭がにぶい」と御訓を頂いたのです
 が、生来酒好きの私は、その後また
 たく間に女ばかり五人の子供の父
 親となつてしまいました。いづれも
 先生の御注意に背いた子供らしく親
 ゆづりの激しさがなくようです。一
 番上の中学三年の長女は今春札幌へ
 移しました。そろそろ子供のために
 犠牲となる親の年配が近づきまし
 た。楽しい犠牲であつてほしいもの
 です。南先生と云えば、先般先生の
 旅行記「欧米人口の旅」を頂き、格
 調高い名文と底を流れるヒューマニ
 ズムの美しさに深い感銘を受けま
 した。なつかしきあまり今春三月
 の上京に久我山の先生の御宅を御訪
 ね致しました。御年を召されても今
 なお御元気で、にこにこ上品に語

られる先生と御会い出来まして、私
 ども若い時代に私ども人間形成の
 上に多大の感化を及ぼされた良師を
 思ひ、いまさらながら緑丘学園の恩
 恵を胸にかみしめたことです。商大
 も私も習った先生は現在では室
 谷、木曾、久木、松尾の四先生のみ
 となりました。
 私は土佐犬の愛好者であります。
 あの堂々たる体格と悠揚せまらざる
 態度、温和な気性にかかわらず死し
 ても屈せざる斗魂、尾崎士郎は「三
 十六俵裸の土俵に人生を見る」と相
 撲を礼讃していますが、土佐犬の斗
 技も全くそれと同様です。いや八百
 長がないだけに一層その感を深くし
 ます。攻撃犬は相手がその攻撃の強
 さに耐えて反撃した時に敗れやすく
 、防禦の強さを土台として攻撃に転
 ずる犬でなければ大物にはなれませ
 ん。横綱の栄冠を獲得するまでの、
 不断の訓練と欠点をため長所を伸ば
 す育成、飼育者と愛犬一体となつて
 の愛情と作戦、すべてみな人生の縮
 図となりませう。私の愛犬「大熊号」
 は近く北海道横綱に推薦されます。
 全国第十七代横綱「端龍号」を曾祖
 父に、関西横綱「寿二号」を祖父に
 、北海道横綱「快風号」を父とする
 名門の出であり、僅か十三戦三才半
 で最高位に上ろうとしています。私
 が作出し、私の育成したこの犬の運
 動に、私は自宅に居る時は毎朝夕五
 里以上の運動をつけます。それがま
 た私の健康上の支えとなつていま
 うです。家内からは「犬を横綱にす

まんびつ五人集

るより、子供を横綱にするよう努力してほしい」また「父さんは常に失敗だらけで七勝八敗。せめて大熊の真似でもして十二勝三敗以上の人間になって下さいよ」とたしなめられ何時も苦笑している次第です。戦争のため、平和な会社員生活から思わざる漁民運動の荒波の中に入った私は、私の組合員である恵まれざる三五〇名の漁民達と一体となって今日も明日もささやかな社会運動の闘いを進めて行くことでしょうか。

漫筆五人集の御指命を受け、とまどったあげく、とりとめのないことを書き、終りにはとんだ犬の自慢話に落ち着き恐縮です。

次回は東京支部の石川孝一君に御願います。

(昭十二 長万部漁業協同組合長)

渉外活動

巻 岐 隼 雄

(函館支部)

最近の販売競争は実に激しい。すこしでも良い物、すこしでも新しいものを。それでなければ後塵を浴びなければならぬ時代となつて来ている。われわれ銀行員もセールスマン・ショップを吹き込まれ、さらにマーケティング活動まで要求されている。各行とも渉外に重点を置き、マーケットシェアの確保に躍起になっている。従つて渉外に当っている者の

まんびつ五人集

苦勞は一通りではないし、いろいろ失敗も多い。経済がいわゆる見えざる手によって動かされているとすれば、われわれ銀行員は金に追い立てられて毎日働いていると云うのが実感である。三時になり備員さんが玄関の扉を閉じるのを見るとホッとするほど第一線は忙しい。その日の伝票が一応計算係に廻ったところ、支店長を囲み四方山話やら係間の連絡が始まるわけだ。

渉外係になつたばかりのA君が帰つて来たが、何となくションボリしている。もう渉外がいやになりまして、と云う。話はこうだ。「今日山田さんのおばあさんの家に行つたところ、ちょうどお孫さんが来ていてあやしているところだった。そばに子供が居たら子供をほめ、猫が居たら猫をほめること。先輩に教えられた通りお孫さんをほめることから話が始つた。おばあさんはニコニコしている。滑り出しは、すこぶる順調だ。ところがその孫のきかないこと、しまいに物差して彼を叩きはじめた。困つた子供だと思ひながら、随分元気な坊やですネ。将来は力道山ですか、と精一ばいのお世辞を云つた。とたん、おばあさんの顔が険しくなつた。オヤと思つたが、それから座が白けて話が一向進まない。変だと思つた拍子にその孫が女の子なのに気がついた。しまつたと思つたがあの言葉が出ない。預金貰うどころか飛び出して来てしまつたと云う。

失敗を一つしでかした気が取り

直して次の美容院に廻つた。ちょうど店は暇な時間で主人公から美容の話をしていろいろ聞いた。近ごろ流行しているアイシャドウは猫も杓子もというほどではないにしても、目立つて多い。元来モンゴリヤ系民族の特長は目が細く顔が平ベツタイところがあるが、これがどうやら日本人の悩みの種らしい。アイシャドウの狙いは平ベツタイ顔に立体感を出し、目をくまどるのを目を大きく見せよというのには申すまでもないが、その起りはエジプト時代眼病の治療と予防に緑色の孔雀石の粉を水にすつて目のふちに塗つたのが初り。これが案外美しいので化粧にとり入れられたらしい。しかし、どの顔でも似合うわけではないが、どうしたことかアイシャドウ族には美人が居ないと云うこと。まあザツとこんな話であつたようだ。ところがよせばよいのに次の訪問先で早速この話を話した。限つて顔はマズイと表現が飛躍して話す段になつて奥さんの顔の雲行きが悪くなつた。おかしい思つておき、次の部屋から娘が出て来た。まぎれもないアイシャドウをしている。しまつたと思つた間もなく、その娘が「おかめで悪かつたワネ」と、自分の前を荒々しく通つて外に出て行つた、と云う。

続けてしくじつてはネ...と、一同笑うほかなかつたが、同席していた渉外十年選手のB君が「いや笑つていられない、俺も渉外に廻つたばかりの頃、風呂屋で因業で銀行嫌い、

しかも凄く金のあると評判の爺さんに会つた。裸で話せば或いはチャンスもあるかも知れないと心はずませ、前に進み出て「裸で失礼ですが私は銀行の者で...」と挨拶したところ「風呂の中で裸で何が失礼だ、着物着ている方がよほど失礼と云うものだ」とシロリとやられた。

毒気を抜かれたと云うか、チヂミ上つた股間の一物をタオルでおさえている事が精一パイ、坐りながら棒立ちになつたとはこのことだネ。あとは夢中で飛び出して来たが熱気ばかりでなく暫くボーッとしていた」と云う。A君も皆と一しよに笑い出した。失敗は渉外につきもの。失敗のつぐないをし、さらに相手の信用を得るよう努力するのがわれわれのつとめさ、と流石にうまいことを云う。A君も元氣になつた。明日からまた大いに活躍することだろう。

次回はナシヨナル河西君へ

(昭十四 北海道拓殖銀行松風町支店)

今日此の頃

穴 釜 升 夫

(札幌支部)

マンビツ五人集のバトンが小生に渡されてから、なにかうまいことを書こうと思つて毎日苦渋していたのですが、結局は餅は餅屋でビールに関係したことになつてしまいました。

さて、会社の私の室の戸棚の中に古い色々なザイデルがあります。美しい硝子のやら、五リットル位も入る飾り用のやら、また昔、おそろく独乙で量り売り用に使つたと思われる機械蓋のついたのやら、雑然としてならんでいる中に、同じマークのついた新旧二つのザイデルがあります。

私は早速この二つのザイデルを両手にした写真を入れて、この五十年の間に二度の世界大戦を経験した彼我両社が、その困難な時代を乗り越えて共に繁栄しておることの喜びを、一種の感慨をこめて書き送りました。ところがしばらく経つてその返事に曰く「君はザイデルの蒐集家であるらしい。別のジョッキを送つた。」とあつたので私はいささかならずガッカリしました。そしてあるいはホフ・プロイ社の現在の経営は、すでに五十年前以前の伝統が絶えて、

無関係の人の手に移つてしまつていのか、とも考えて自らの心を慰めていました。ところで、昨秋私の長女の女婿が折よくミュンヘンの十月祭りに際して同社の社長を訪ね、穴釜の息子か、というので大いに歓迎された揚句、記念撮影をして来たのですが、その社長さんはかなりの年配のお方で、先づ私ぐらゐの年齢ではないかと思われの方でありますので、私はまた考えこまずにはいられなくなりました。

前述のような追憶や感慨に耽ける

のは、日本人だけで、独乙人を初め外国人は、月日の経つのは当り前のことだとして片付けてしまふのだらうか。結局は国民性の相異かな、と考えたり、また私が年甲斐もなくセンチすぎるのかな、とも考えたりして、このザイデルを見るにつけ、今でも解決がつかず、妙な気持ちになっている今日このごろであります。

さて、この次のバトンは私の同級玉井武さんに御渡し致します。

何卒よろしく。

(日本麦酒株式会社支店長)

まんびつ執筆者

- (大三) 高橋徹男
- (大四) 八木康之助
- (大六) 伊東小四郎
- (大九) 菅谷重平
- (大一一) 田中弥三郎、塩谷精一郎、古関周蔵、大久保鹿次、大井義郎、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫
- (大一二) 向当賢一、久保吉幸
- (大一一四) ほろにが太郎、谷本朋次、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
- (大一一五) 増田常次郎
- (昭二) 油小僧、牧野吉男
- (昭三) 佐竹繁寿、樋山三郎
- (昭四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三
- (昭五) 池田啓助、井藤久也、吉川友記、北村太治郎、横井七之助
- (昭六) 北村匡弘
- (昭七) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄
- (昭一〇) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
- (昭一一) 森川正明、浅野潔、土屋龍郎、木下春男、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、小田島一雄、田中三郎、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二
- (昭一二) 内藤好生、皆川荘一、西谷作太郎、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作
- (昭一三) 江川裕一郎、若山永太郎、木村章三、山本俊雄、松ヶ野寿夫、丸山弥、平木勇三、金垣英雄
- (昭一四) 伊原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、大田正勝、巻岐隼雄
- (昭一六) 柏原正美
- (昭一六後) 中村平之助、小林芳美、松村克巳
- (昭一七) 梶谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
- (昭二三) 牧口富伍、リトル・ラン
- (昭二五) 北野巧
- (昭二九) 古内一成
- (昭三〇) 石津洋三
- (昭三一) 小田島和夫
- (昭三五) 佐藤良雄、本前勝文朗、長津行高、猪浦淳一
- (昭三六) 神田隆志

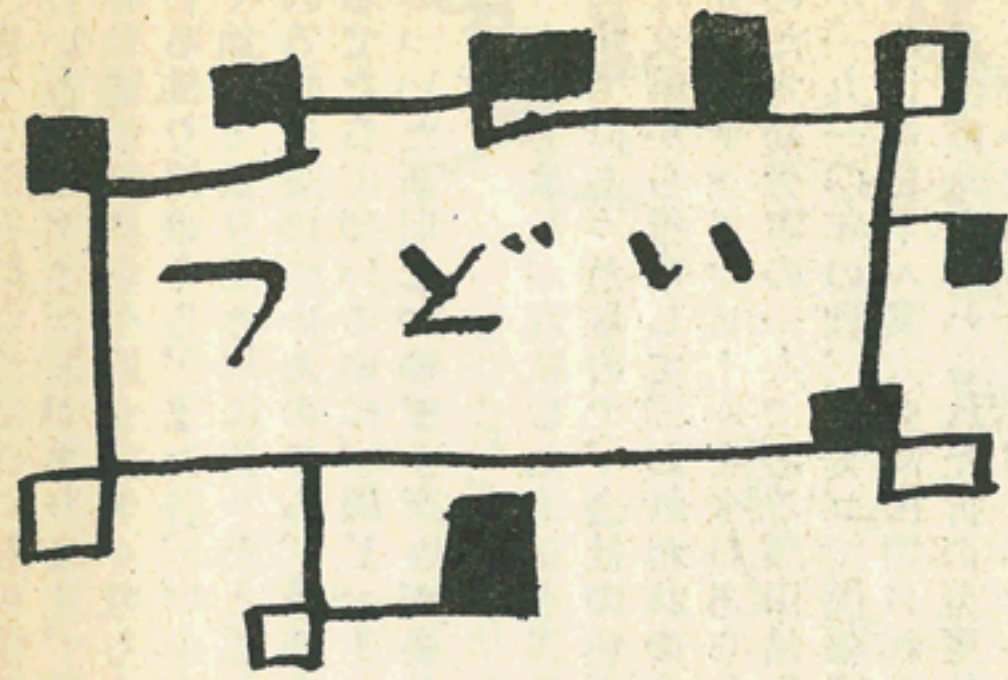
まんびつ五人集

四十周年記念特別集會を 湯河原温泉で開く 緑士会

記念特別集會

(在京幹事記)

待ちに待った四十周年記念特別集會の日がやってきた。三月十七日土曜日、春らしい陽ざしがかがやきわたって全くの佳き日である。午後四時の予定であったが、鉄道事故で湯河原温泉保養所において、物故会員五十三君のために追善法要を執り行った。寺は湯河原から熱海へ越える山の中腹、山門をくぐって本堂に至る構えは由緒の深さを思わしめ、あ



たりの閑寂は故人を偲ぶにふさわしい。華を飾り燭を点じた祭壇の前に一同正座し冥目して読経をきけば、在りし日の亡友の姿が彷彿として心に浮ぶ。友よ静かに眠り給えと心中につぶやいて香を焼く。法要を終って宿舎天野屋新館に入る。総勢三十一名。遠く小樽から相沢正美、越崎宗一、讃岐梅二の三君。高松から大泉行雄君。大阪から高浜年尾、竹村蔚、松本周三、宮地邦介、四谷宗義の五名。伊勢から井上巖君。静岡から大石壮太郎、功刀素重の両君。東京から大場寅太郎、太田省三、君島興一、因弘勤之亮、小関勇、小橋庸三、香田信次、佐藤精二、杉山昌作、中瀬秀一、中田新平、長塚弘、西村正一、松岡俊一、三沢秀雄、宮脇音次、山口春生、八幡藤次郎、若林峯嘉の十九君。いづれも強い友情の絆を手操ってやって来たわけである。中には卒業以来四十年ぶりの対面という取合せもあって、はじめから懐かしさ愉しさに声ははずみ、座敷にくつろいでも浴槽に浸って話の切れ目が無い。やがて広間に勢揃いして記念の写真をとる祝宴をはじめ。幹事から簡単な挨拶と庶務報告をし、次いで相沢君の発議で、伊東温泉の三十周年記念集會のかたがとと幹事をやって来てくれた杉山君に記念品を贈って謝意を表した。あとは美妓のお酌で盃を傾けながらの歓談笑。酔いもよおす程にわれと思わん面々が次から次へと高座に上り、門外不出の名調子を聞かしてくる。かくていつ果てるとも知れない興を時間のきまりで打ちきりとし、それぞれ四、五人ずつ割当の部屋へ引揚げたが、ある部屋では夜半過ぎまで、ほかの部屋では夜の明けないうちから、蒲団に入ったまま話が始まるという始末。

それでもなお話し足りない格好で、翌朝は早くからまた広間に集って話し合い。席上記念の寄せ書をしたら、越崎君が持ってきたテープレコーダーに記念の一言を収めたりして、別れを惜しんだ。

「まとまった集會はこれがおそらく最後かも知れない。この次の五十周年記念といえはお互に輪七十を過ぎることとなり、果していくたりが元気で出席できるか分らない云々」という気持が、斗病七年未だ極めて不自由な体を是が非でも運んでやって来た所以であると相沢君自ら語っているが、それは「四十とせを花に魁けこの集い」と祝福しながらも「春灯のもと老いせめしわれらかな」と詠嘆する年尾宗匠の心でもあろうし、また別れを惜しむ一同の感懐でもある筈。しかしながら人生の屈託は大の禁物。お互に一段と自愛自重して健康を保ち、次の記念集會はもっと盛大にやりましょうぜ。

最後に、大量の「赤福」を伊勢から遙々かついで来てくれた井上君と、わざわざ祝電を寄せられた萩尾英彦(大牟田)、須藤幸一(群馬)、神沢重治(高山)、安村靖彦(同)、今井徳弥(小樽)、富田虎雄(同)、山岸芳治郎(糸魚川)、土田秀雄(新潟)、木村慶七(札幌)の諸君に、厚くお礼を申し上げます。

卒業四十周年

(三沢 秀雄)

私は、去る三月十二日から所用で名古屋、大阪へ出張し、用務の終えた十六日夜は高浜、松本両兄が一夕設けてくれた大阪情緒を充分に満喫し、翌朝は特急第一富士に両兄のほか大阪緑士会の宮地、竹村両兄と私の同勢五人が同乗して湯河原温泉に向い、同日夕刻から天野屋旅館で開かれた卒業四十周年を記念しての緑士会全国大会に出席して久し振りに楽しい思いをした。

卒業四十周年記念ともなれば色々感懐の深いものがある。私は十年前の同じ緑士会の三十周年記念大会にも出席したが、その時の雰囲気は仲々どうしてみんな精神的なものがあった。宴会中は自ら進んで余興を買って出る者が多く、中には裸の南洋踊りを踊り出す者、果ては宴が終つてからもまだ物足りなくてほかの料亭で飲み明かす者等々、まだまだ元気発洩たるものがあつたが、それから十年も経つた同夜は踊り出す者もなければ、外へ出て飲み直す者もなく、流石にみんな老成した態度であつた。が、お互の懐旧談に熱が入つてくると、常日頃の難しい顔や、尊厳そのものの顔はどこえやらみんな昔の純真な童顔に還つて良く談笑している有様は、誠に何んともいえない



(左上から) 小関 山口 小橋 高浜 君島 大石 三沢 大場 松岡 竹村 越崎 国弘 宮脇 中田 讚岐 相沢 香田 八幡 太田 杉山 西村 八幡 松本 中瀬 大泉 長塚 若林 四谷 功刀 井上 宮地 佐藤

いほほ笑ましい風景であり、仲々得難い情景であつた。老境に入るにつれこのごろの私は純真さを求むる心の切なるものがある。世俗に「孫ほど可愛いものはない」と。それは一体何故であろうか。誰れしも老年に至れば多少心の余裕ができることによるのも一つの理由であろうが、赤ん坊は例外なく

純真そのものであるから自分の反対に憧れをもつ心の現れではないかと思う。過去四十年を省みると、その間、いかに純真さを欠いた所行が多かつたことか。誠に悔い多き次第であるが、人間は若い時の純真さを壮中老年を通じて一生持ち続け誠実一筋に身を処するならば必ずや報いられ、誰れもがそれに応じた幸福が得られるのではないだろうか。功を急ぐのあまり、策を弄し、誠実さを欠いたならば結局においては必ずや期待に反した結果に陥るものと信ずる。気のついた時は人生すでに遅しの感であるが、せめてあといくばくもない余生

だけでも純真な気持で誠実に仕事をしたいものと思う。

湯河原所感

(宮地 記)

湯ヶ原はすでに桜も盛りをすぎた。保禅寺はいずれ由緒ある寺なべく、荘厳華麗な須弥壇の前にしめやかな読経を聞き、亡友五十三名の称名を耳にしては、座に連なる当時の猛者連も等しく感無量の思ひだつたことだろう。

大野屋別館はさすが当地一流の宿とて、俗塵を洗うにふさわしく、三十一名の老紳士連中も静かなる感激に一夜を語りあかしたことは終世の思い出となることだろう。

特に当夜の宴に連なる諸兄の顔、顔、顔、私と盃を汲み交していた讚岐さんが「みんな生き仏みたいなの顔をしている」と云われたが、これこそ誰れでもが浮かんだ短気な実感だつたらう。釈尊の仰せられた「東方に仏国あり、其の数恒砂の如し」という御教えも、ここにこそと思ひ出され、有難い極みであつた。

翌朝は互いに再会を約しながら三々五々と別れて行つたが、四谷さんと私は宮脇さんの案内で湯ヶ原の茶寮に招かれ、留守居のおばあさんのもてなしの茶菓を楽しみながら清談数刻。これまた、こよない思い出となるだろう。その昔土地の豪族土肥氏が夜陰、密かにこれを献じては頼朝主従の生命を救つたと伝え聞く吉備餅の味も永く記憶に残るだろう。

同窓生の肉声

卒業四十周年記念大会を三月十七日湯河原で開く案内状を幹事諸兄から受けていたので、ぼくは遙々せひ出席する通知を出しておいたが、何か珍らしい北海道の思い出を当日集つた諸兄に持って行きたいと考へた。それで、いまだこそ小樽附近で練は一匹もとれなくなつたが、ぼくらは母校を卒業した大正十一年のころには、まだまだ練はとれていたもので、同窓の諸兄におかれても懐しい思い出があるに相違ないという結論に到達した。それで小樽市祝津の老漁師が練全盛時代に唄つた唄——すなわち網起し音頭、沖揚囃子(ソラン節)など——を吹き込んだテープを持参し、ぼくの頭にフット浮んだのはテープの片側が空いている。この片側に集つた同窓の一人一人の声を録音しようと考えた。ぼくのこの提案に皆な賛成してくれ、翌朝一人一人が神妙にマイクの前に立ってくれた。録音が終つて、すぐその場で巻き戻して放送したことは言をまたない。みな不思議そうに自分の肉声に聴き入っているところをみると、お偉方(もうみな重役・社長クラスだ)は、あまりこのような庶民的なテープコーダーなんて機械はいじつたことがないらしい。このテープは再録の希望者があり東京へ置いてきたが、まだ戻つて来ない。ぼくは早く返してもらつて、もう一度ゆつくりと四十年振りて会つた同窓諸兄の声を聴きたい思いに耽るや切である。

越崎記

昭和十二年卒

二十五周年記念集會の

氣運いよいよようごく

本日集ったのは、皆川、内藤、矢野、林、矢野の五名であった。矢野君が東京の阪急交通社東京営業所主任に転勤となるので、ニュー・ミュンヘンで送別の宴をばった。矢野君の転勤スケジュールがギッシリつまっている、いつ時間があくとも判らず、突然招集をした次第である。連絡の出来なかつた諸氏には誠に申し訳なく、おわび申し上げます。

さて、その席上前号の「緑丘」で発表になった二十五周年記念集會の記事に対する批判が出て、今回関西側は上京を見合わせることに一決した。大阪案は左のとおり。

- 一、日時は秋の土曜・日曜
- 一、場所は白浜温泉か有馬温泉または京都、奈良いづれかに一泊して古都巡歴
- 一、参加者は家族連れか女房連れ
- 一、会費は一人三千円程度
- 一、記念アルバムは別途会費を徴収
- 一、五月から毎月壹千円宛積立てること

◎積立預金の責任者
林 武
大阪市西区堀一丁目一三五 富屋ビル別館
新洋交商會内

新潟県糸魚川市本町通 八木(旧姓原田) 四郎
先般の「緑丘」を拝見しますと、近く昭和十二年の卒業二十五周年記念の同窓会御計画の趣、何よりと存じます。いつの間にか二十五周年を過ぎたものかと思議に思うくらいです。小生卒業後四年ほど三井銀行小樽支店におりました。当時は川森君、本間君などと会う機会はありませんが、その後ストラバヤ支店に転勤、戦時中は東京支店とストラバヤに再度渡航したりして、戦時末期には三菱重工に転出、終戦時には三井船舶に勤務しておりました。戦後も引続き船舶に奉職の積りでおりましたところ、養父母も老年に入り財産税あるいは農地法などで生活も困難なところから、やむなく郷里に入り、戦時中中断した家業の衣料品小売業を再開、本日に至っております。

入郷後は五、六年前に日本専門店會連盟の全国大会が札幌にありました節、大会そのものよりも小樽がなつかしくて渡道しましたが、小樽には一泊しか出来ず、母校と銀行時代の諸氏に会うのが精一杯で、同期生としては一番親交を結んだ板谷鶴太郎君を苦小牧工場にたずねただけで、今回の同期会には是非とも参加したいと思つた。このような機会はないと思つたにないと思つたので、せいぜい

い沢山の諸君を集めて下さい。なお開催場所、日時などは一任しますが本當にゆつくりお互いに話しをしたいと思いますので、東京で形式的に合するのではなく、熱海なり伊東も近いことですから、一夜ゆつくり語り合える場をつくって頂きたいと思つています。なお時日も七月中旬は相当暑氣の強いころですから六月が最適なものに思つています。

この會を機会に失なわれた青春時代(戦争による)のマイナスを回復して元氣に、やがて近づく五十路をむかえたいものと愚考している次第です。

札幌市北四条西一丁目二一番地 倉本 福藏
京都支部特集号を一頁一頁面白く拝読いたしました。皆川君の概も知り、本日本間君にも連絡し、全国同期生會の実現を期す決意です。

【お知らせ】

緑丘會員名簿と母校創立五十周年を記念して緑丘五十年史が出来ております。五十年史はなかなかよく出来ており、ぜひ一冊お手許に置かれるようお奨めいたします。

価格は 緑丘會員名簿一冊八〇〇円(含送料)
緑丘五十周年一冊五〇〇円(含送料)

お申し込みは 小樽市緑町五丁目 小樽商科大学内緑丘會
(または東京都中央区銀座東七ノ六双葉ビル内 緑丘會 東京支部)

の何れかにお願ひ致します。

緑丘申込 結々到着

三十七年度「緑丘」の申し込みについては振替用紙を同封したところ、「緑丘人」から申し込みが結々到着している。

なお三十六年度まで申し込みをすすめ来た編集部も再三の案内に返事のない緑丘人は「縁なき象生」とあきらめ、パッサリ名簿を破いて焼却してしまつた。

このような「小樽出」はやがて停年近くなると會合にポツリポツリ顔を出すのが通例である。息子の就職をたのむ時、娘を嫁にやりたいがいのがないか、とか、こんな男に限って云うことがきまっています。わずかの誌代も送らぬくせに云うことがあつかましい。なまけな小樽出もあるものだ。しかし、あなただけは別です。「緑丘」があなたの手許に届いているからです。すぐ忘れずに五〇〇円の御手配を。

先輩の教えるもの

會費というものはやはり請求がきたら一寸の手止りを惜しまず処理して置くべきだ。それが「そのうちに」とか「あとで」とか思つて期を過ぎすと全く忘れ放題、世話方に対して誠に申し訳ないことになる。

東海産業(株)取締役社長 (大三) 柳瀬 伊蔵

読書會

中野 孝一

私たち札幌に勤務する久野會の者で読書會を初めたのは昨年の夏で、當時から一週間おきの木曜日の午後六時半に顔を合せることにしたのです。テキストには企業分析方面の希望が多く、また卒業後はあまり読むことの出来ない原書をと、MYER "FINANCIAL STATE MENT ANALYSIS" を使用し、各章を二、三名で担当しております。なお、内容に於て何んとも理解に苦しむ点、或いは問題点等について、恩師に教えを願うのも地理的に恵まれていて幸いです。

この読書會も、当初會合の場所が見当らず難航しましたが、先日までは北電の独身寮の娯楽室で、今後は日本麦酒の独身寮で行うことになっていきます。しかし、いづれの場合でも麻雀のバイ、碁石の横での會合でみんな各々強者のくせに手を出すことのないのは、日中の仕事に疲れている精もあるが、アメリカの学生が必死?のデイトの後では机に向つて勉強する、すぐに学校のことを考へ机に向う。と云うことと似て、決して不思議なことではなく、緑丘を空気を吸つた諸兄には理解が容易なはずです。

なお欠席者は理由の如何を問わず金百円也を徴収し積立ててあり、現在千五百円ほどになったが、春には久野先生を困らぬのコンパを計画中です。

久野會成立記

尾崎 勝

ませんが、大阪には小原芳春さん、笹島康平君、柏谷宏男君がいる。大阪緑丘會の皆様、彼らに大いに注目してやって下さい。

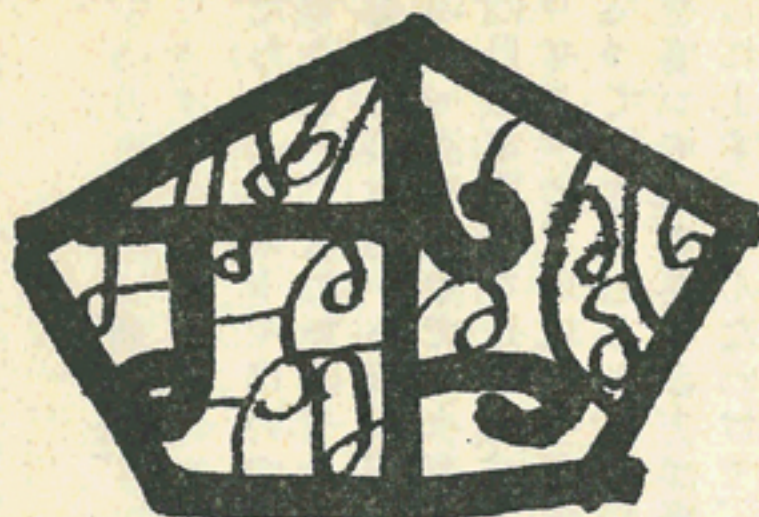
(昭三六 日本麦酒勤務)

わが會は商大久野ゼミナール卒業生ならびに在校生から成り、會員相互の親睦を図り、あわせて久野ゼミナールの発展に寄与することを目的として昭和三十五年第一期生の卒業と同時に、久野光朗先生に名誉會長となつていただき発足したものです。しかも現會長、猪浦淳一君(野村証券勤務)の起草せる名文久野會々則をもち、年一回會員の動靜を伝える會報を発行し、お互いの協力關係を在校中と変わらず保持している点、いままでのところ他のゼミには見られない組織であると自負致しております。

本年も新年早々、札幌、小樽在住諸君の新年會を小樽市内で行い、久方ぶりのストームに在学中の気分に戻り、各人のファイトの良さに敬服した次第です。

本年も第三期生のゼミ卒業生を迎え、総数五十名になり、全国に活躍する會員に、在学中と交らぬ先生の暖い御指導をうけて、わが會はその若さに物を云わせ、益々発展の機運に満ち、その前途洋々たるものあることを會員諸氏とともに期待して

昭35年卒業生と在校生で 久野會を結成



はじめに
神田 明彦

北の都小樽、青春の夢を育くみ、夢と希望に胸踊らせて去つた小樽の街にも春が来て、高台から見る海の色は鉛色から明るい色に変わりつつある。

緑丘は本當に素晴らしいと毎回楽しく拝見させて戴いておりますが、わが久野會を紹介させていただきました機会を与えられましたことは、誠に光榮の至りであります。久野會の起源については次に述べますが、久野先生は単に會計ゼミの指導だけでなくわれわれ相互の友情が深まるよう指導された。春はニセコ登山に、夏は祝津の海岸で、秋の塩谷のブドウ狩り、冬、朝里のスキーと。ゼミの時間には先生は若い情熱を注ぎ、われわれは冷汗を流してこれに応酬。実に良く学び、よく遊んだ。おかげでわれわれは卒業後も、久野會を結成、互いの友情と知性の涵養に努めている。額にシワ寄せ原書に取り組むのもわれわれならば、小樽の三幸ピヤホールでコンパをし、雪の降る坂道を肩を組んでストームに、進軍歌に若いエネルギーを散散させるのもわれわれなのだ。

わが會員は、ようやく五十名に達した。師いわく「ベスト・ヒフティ」である。少数にして優秀なるものを世に送るのが商大の伝統なれば、久野ゼミこそ正しく商大の伝統を継いでいる。小樽商大正統派ゼミナールである。

紙面の都合上、全會員を紹介でき

(昭三五 新宮商行動務)

(昭三五 第一銀行勤務)

カヲチ便り
 亀井尚一(昭十八)

先日は「緑丘」御惠贈下さいまして誠に有難うございました。いつに交り御厚情、身にしみて有難く存じます。

緑丘誌上にプリントされた小生のカラチだより、貴重な紙面をおさき下さいましたこと、お礼申し上げます。あのようにして眺めてみますと何かくすぐったいような気が致します。

小生もおかげさまで元気でやっております。カラチも良い気候の冬はもはや過ぎ去り、いよいよ酷暑の候です。日中温度はすでに三十三度を越えておりますが、空気がかわいているせいでしょうか、それほどひどいようには感じません。しかし直射日光のもとでは相当の暑さで、小生などもゴルフをちょいちょいやっているものですから真っ黒に日焼けしております。

広島 中野清一(元母校教授)
 今月十七日、およそ二十年ぶりで



本間誠一君が訪ねてくれ、短時間でしたが四方山話を交しました。ちょうど折あしく三月上旬以来病臥静養中でしたので、本間君とあちこちへ同行出来なかつたのは心残りでした。

昭和二十六年から、およそ十年間広島市史(全七巻)の執筆分担の事に巻き込まれ、大へんな道草をくいました。中央の学界めあてに発表したい著作の計画が二、三ありながら、市史のおかげでおよそ十年棚上げせざるを得ませんでした。そのうち老人になりましたが、余世が許せばこれからはぼつぼつ本格的な物をまとめあげたいと思っております。

このころは地方誌と並んで社史編集さかなようで、それはそれで大事な、しかも今まで不十分だった盲点をうづめる仕事が始まっているわけです。手近かな社史や地方誌が次々に出来上った時にこそ初めて一手足のある日本史がかかれることになるのでしよう。

余談ですが三十四年八月四日夜、日本テレビの番組「この人を」に私は青年たち五人と出演しました。

大阪支部長の天野君には、その年東京からかえり大阪で久しぶりにお会いしました。その後御無沙汰ばかりしておりますが、お会いのときよろしくおつたえ下さい。広島でも緑丘同窓会を軌道にのせたく思いながら思うように御手伝いできず、全国の緑丘仲間にはづかしい思いをし

想せられるが、新卒業生を送り込んだ事業所に対して小口を集め、あと五千万円を全国で達成せねばならぬと神戸事務局長の気炎は荒く、明日から京阪神を宮地関西事務局長とともに未だ募商社への訪問を協議した。

話は東京で開催される全国総会のことにおよび、その足で学長に名古屋、京阪神の総会に出席せられるよう懇請したところ、五月十九日名古屋、二十一日京都、二十二日大阪、二十三日神戸の総会に出席されることを約束された。

次いで畑相談役からの発言で、全国大会を大阪で近いうちに開催してはどうかとの緊急議題の提唱あり、東京で開催される五月十七日の理事会にはかることとした。

学長訪問先
 四月二十四日 松下電器産業本社、久保田鉄工、ダイハツ
 四月二十五日 安宅産業(株)、柳島津製作所、日本新薬(株)、宝酒造(株)
 四月二十六日 日立造船、江商、高千穂交易、グリコ、神戸銀行、神戸製鋼所、川崎重工

以上十四社を電撃的に訪問した。それぞれ心よく迎えて、何分の申し込みをさせていただくとの快諾を得た。

青木時男(昭十二)
 小生もう十余年の療養生活、一切はすべて無沙汰の限りを尽しておりましたところ速く大阪から「緑丘」を頂き感激にたえません。どうしてわかつたかと困ってしまいました。さきに頂いたものには同期の顔もみえて懐かしいのを通りこして、ちょっと云いようのない気持ちになってしまいました。私も、いまはすっかり元気で、療養しながら日患同盟の仕事をやっております。そんな次第で戦後は全く近くにいながら小樽へも行ったことがあります。緑丘新聞も時々送ってくるものですから、これもまた嬉しいやら恐縮やら、面目ないやら……。

東京 酒井誠(昭十一)
 毎々御手数をわづらわしておりまして。「緑丘」大へんなつかしく読んでおります。

何かと同期の皆様は動静もよく伺へて、むかしを偲ぶよすがとして大いに待ち望む時もあります。

小樽 寿原九郎(大十三)
 大へん厄介な仕事をよくやっております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

久野ゼミナール

岡部 三男

私たちのゼミナールはいつも発湧とじています。私たちのゼミナールは、まだその生誕から日が浅い、私とその第一回卒業生で、今春ようよう三回目の卒業生を送り出すのだから。ゼミへは、専攻の会計学を目的に集って来ると云うより若い久野先生を慕って来る連中の方が多く見受けられます。そんなわけで、他のゼミには見られない久野ゼミ独特のカラーが自然と出来てくるように見えます。どんなに自分の会社のヒューマン・リレーションがうまく行っているかと思っている経営者でも、一度私たちのゼミをのぞいたが最後すっかり自信をなくしてしまいかもしれません。ちなみに野球の試合をやらせて御覧なさい。私たちのチームには、長嶋も稲尾も、中西もいませんが、連戦連勝、他のゼミナールを全然寄せつけません。今年も学内大会で優勝したとか。その因は、いわずと知れたガッチリ組んだチーム・ワークです。あとは、この意気をゼミの教室へ。

こうして私たちは会計学を学ぶと同時に、人の和を肌感じて二年間を過すのです。

(昭三五 北海道電力(株)勤務)



左から 天野支部長、加茂学長、木村委員、神戸事務局長(東京)宮地事務局長(大阪)若山副幹事長、畑相談役(手前右)

加茂学長、神田(東京)事務局長と共に京阪神の商社、銀行を訪問

東奔西走の加茂学長は九州から神戸大学を訪問、東京の緑丘会後援会事務局長神田正英氏と大阪で落ち合い大阪支部を訪問した。

午後四時三〇分から募金推進委員集り、天野支部長、宮地関西事務局長が関西募金の状況と今後の見とおしなどについて報告、併せてまだ申し込みなき大商社への攻撃方法について隔意なき意見の交換を行った。一般財界の不況はここ当分困難を予

耐酸 耐蝕 滲鉛加工 鉛工事一般

日本滲鉛工業株式会社

社長 大久保 鹿 式 (大正12年卒)

大阪市東淀川区木川西ノ町六丁目五
 電話 大阪 0561-0492

代表的 サッポロビヤホール

3階 お座敷 御宴会

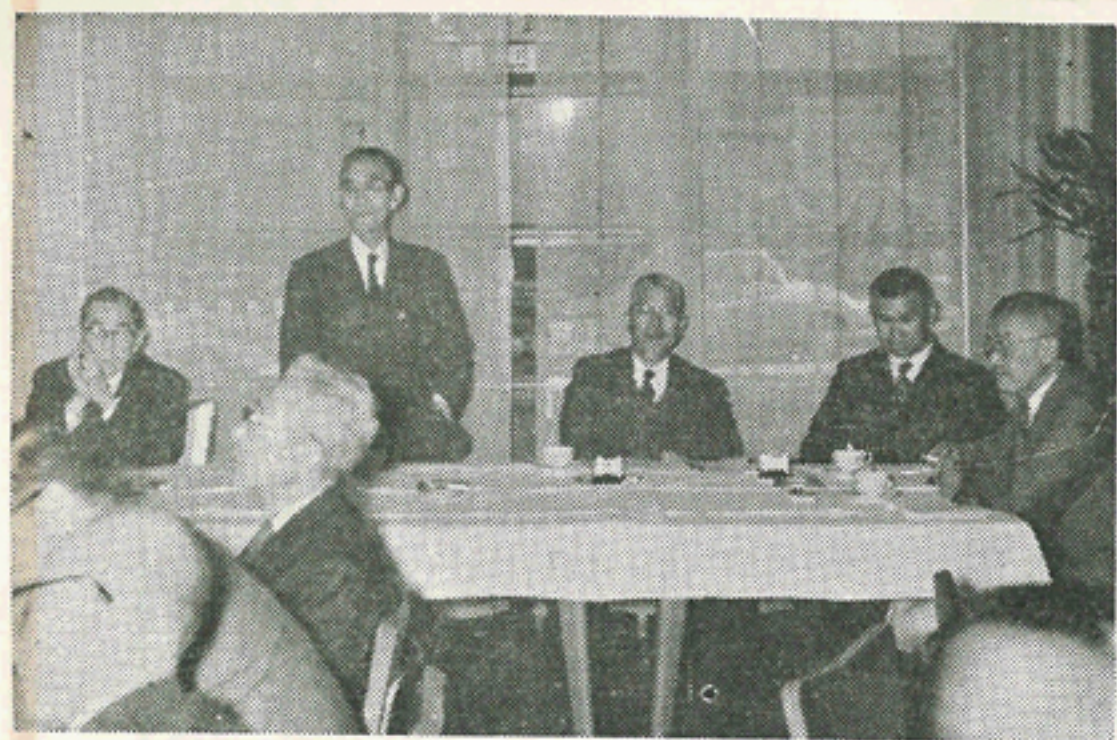
2階 レストラン 成吉思汗焼

1階 純ドイツ風ビヤホール

文化人のビヤホール

ニュー・ミュンヘン

梅田阪急前・梅田シネマ東 TEL 34 3381-36 6545 7122



この二月第十七回の冬期国体を了えた天狗山の山肌に残る雪も漸く少なくなり、花園公園の桜の蕾もふくらみかけた五月一日、昨夏母校開学五十周年に來樽された緑丘会理事長佐々木周一氏が再度小樽の地を踏まれ、同日午後一時半約四十名の在校同窓生が北海ホテルに集い歓迎会を催した。折柄御來樽中の参議院議員苦米地英俊先生も出席され、このほど母校を退官された、大野純一前学長、緑丘会小樽支部長金榮西吉氏の四氏が正面メインテーブルにつかれ戸井正三氏(大八)、上野彦太郎氏(六九)等の長老格を初め中堅クラスより新会員に至るまで各期の代表

佐々木理事長歓迎会

在樽緑丘人 四十名集る

者四十名余が出揃った。小林啓作氏(昭十一)の司会で開会、まづ在樽緑丘人を代表して出席者の最長老石川源蔵氏(大五)が立って歓迎の挨拶を述べられる。次に佐々木理事長は旅中とも思われないう緑丘人の潑刺の象徴とも云うべき爽快なる若々しき左の要旨の挨拶をされた。

「私の奉職していた三井系の会社において、政治にたづさわることはお家の御法度として固く禁じられていたことがあったが、最近三井系より有力なる政治家を輩出、政界をリードするに至ったことは、政治に関心を懐かずして近代の実業家と成り得ずとの結論に達したからである。今こそ緑丘人が眞価を世に問う絶好の機会であると思う。

「私に苦米地先生も居られますが、先生のような清廉高潔の士を政治家として持つことは緑丘人として誇りとしなくてはならない。これは緑丘会理事長としての肩書ではなく私一人の意見として緑丘人に訴えざるを得ないところである。」と切々たる理事長の熱情のこもる言辭に全員思わず感激を覚えて万雷の拍手が起る。次いで苦米地先生より議會報告、政界余談等があつて午後三時散会した。当日は俱知安より三好長次氏(大八)洞爺より浜野豊氏(昭十七)の参集いただいたことを附記して報告に代える次第である。(九頁へ続く)

東京 柳瀬伊蔵(大三)

新聞や冊子の定期刊行乃至は不定期でも、永続ということは、なかなかむづかしいことで、龍頭蛇尾に終ることが多いのであるが、貴紙ばかりはいつ読んでもあかず、次号を期待するよう編纂されていて、いつも感心ばかりしている、というのが冒頭挨拶に代えた次第なのです。

結局はその衝に当る人の問題で「君なればこそ」と云えば、ほかに人なしと貴支部からおしかりを受けるかも知れぬが……。

でも、やはり今のところそう思っております。伝統連綿弥栄を祈ります。

東京 岡本元治(昭十二)

「緑丘」をいつも懐しく拝見させて頂き、大阪のよかつたことを思い出しています。先日、同期の連中十数名が集り(在京者)母校五十周年記念の映画を見ながら懐旧談をやりました。卒業以来初めてという友達にも会いましたが、みんな元気で、それぞれ友人のニュースを披露致しました。今年は二十五周年の記念集会を企画することになりましたので今から楽しみにしています。

小樽 讚岐梅二(大十一)

「緑丘」第二十四号御送付に預り正に拝受。だんだん発行部数も多くなつたようですし、従つて同窓生の範囲も広がつたことと衷心からおよろこび申し上げます。

三月十七日、湯河原で卒業四十周年の催しがあり、私も末席をけがし

ましたが、その時の写真を東京の幹事まで送つてあります。いづれ誰れかがその写真を披露することでしょう。ほんとうに楽しい一夜でした。

札幌 山尾温吉(昭七)

札幌の地元でさっぱりな同窓会活動が、御地で五年も前から続けられておりますことは羨しき限りと存じます、と同時に最大の敬意を表します。私も本年で卒業三十年をむかえました。来る五月十一、十二日東京にて全国大会が開催されますが御誌に発表するよう進言しておきます。

大牟田 萩尾英彦(大十二)

「緑丘」のお蔭で遠い小樽が間近にあるような感じが致しまして心強く、また懐しい思ひです。

本日二十四号を拝受致しましたところ、併せてたまたま本朝、朝日新聞に小樽商科大学の経済視察ベンクラブ副会長になつた伊藤整氏の言葉、詩人教授大熊信行氏の婦人週間に寄せて等、まったく小樽商大への感あり、愉快でした。

広島 紀野重仁(昭九)

同窓先輩各位の元氣な御消息を懐しく拝聞致した次第です。

当広島には中野先生が広島大学政経学部長として御健在、御活躍中であり、いづれ同窓の会合をもち近況その他御報告申し上げたいと思つております。

東京 伊原利勝(昭十四)

小生神戸支店在動中は格別お世話

になり、神戸支部幹事長としては再建時に少しお手伝い致したのみにて海外出張となり、残念に思つております。

今般一年余の海外出張を終え帰国いたし、次のとおり東京のド真ん中で働くことになりましたので、よろしくお願い致します。

高松 袖潤学(昭二十九)

日ごろ疎遠にながれ誠に申し訳ありません。何かと御厚志をいただき深く感謝いたしておる次第です。

昨日一寸暇を見て最寄りの名園栗林公園へまいりましたが、開蕾も間近に着物姿も多くみられ、酔客とホコリには閉口しましたが、まさしく春を満喫という状況でした。

最近、高松では年二回サッポロ会があり、名簿によれば緑丘出身者も香川大、大泉学長をはじめとして七、八名はおりますが、まだ談合の機会がありません。

「緑丘」バックナンバー早いもの勝ち

「緑丘」バックナンバーが昭和三十三年から次の号だけが在庫しておりますので、お早く御申込み下さい。

一冊について拾円(郵送料)御負担下されば在庫しているものに限り御届けいたします。

昭和三十三年 二号、六号
昭和三十四年 七号、八号、九号
昭和三十五年 十号、十一号
昭和三十五年 十五号、十六号、十八号、十九号
昭和三十六年 二十四号

日立家庭電器特約店

日電家庭電器販賣株式会社

取締役社長 天野 雅 司 (大正15年)

本社	大阪市福島区海老江上1丁目18	電話(45)1744.2362~3.3483.3486
京都営業所	京都市下京区五条通高倉西入万寿寺町146	電話 ㊟ 1935.4782
神戸営業所	神戸市東灘区御影町石屋字狭間185の1	電話 ㊟ 6750.6360
高槻出張所	高槻市大字高槻444	電話 ㊟ 0506

運搬界の
夢を実現した

光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村 正 美 (昭和17年)

本社 大阪市北区南同心町1丁目12 TEL大阪(66)3091(代)
東京支店 東京都千代田区神田小川町2丁目3(井上ビル) TEL東京(291)1216.1309
九州営業所 福岡市中浜口町43番地 TEL福岡(8)1841